



指宿市

防災

ハザードマップ

自助

共助

公助

保存版

## 市民の皆様へ

国内では東日本大震災や熊本地震、地球温暖化の影響を受け、年々激しくなる大雨や台風など、大規模自然災害による被害が多発しています。

指宿市においても、近年大雨による被害が見受けられ、市民の皆様が安全で安心して生活できるように、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。

また、防災の基本は、自助・共助・公助ですが、大規模災害発生時には、日頃から災害に備えることや早目の避難などを行う「自助」、地域で協力して助け合う「共助」、行政・消防・警察等による「公助」があり、まずは「自助」「共助」の力が何より重要です。

今回作成しました「指宿市防災ハザードマップ」は、市内各所の土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び津波浸水想定区域の他に、防災に関する多くの情報を掲載しています。今後の地域防災活動等にご活用頂いて、安全・安心なまちづくりの一助となりますように願っております。

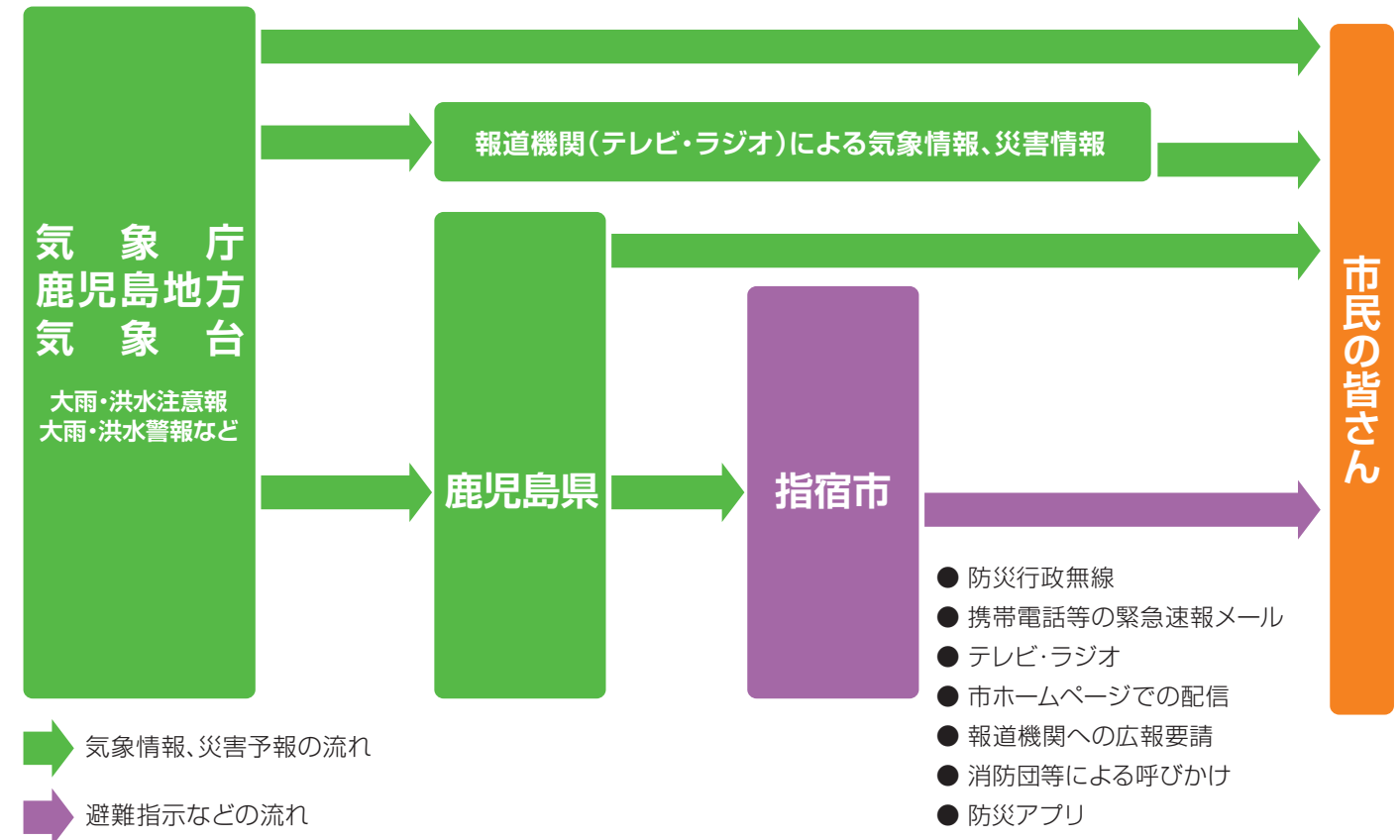
## 索引

市民の皆様へ・索引・奥付	巻頭	防災情報の伝達と収集②	18
防災対策	1	緊急時の連絡先	19
わが家の防災対策	2・3	避難行動ガイド	20
備蓄品および非常持ち出し品	4	避難のポイント・避難行動要支援者の安全対策	21
災害時のトイレ	5	避難所の利用について	22
自主防災組織	6	感染症対策	23
土砂災害	7	避難所一覧	24・25
洪水・浸水害	8	指定緊急避難場所一覧・津波避難目標一覧	26
津波	9	応急手当	27
地震	10	わが家のマイ・タイムライン	28
液状化現象	11	マップの見方・使い方、地図の凡例	29
風水害・台風	12	多言語対応凡例	30
火山	13	災害時によく聞く日本語	31
火災	14	指宿市全体図	32・33
警戒レベルを用いた避難情報	15	MAP1~15	34~63
防災気象情報	16	ため池マップ	64・65
防災情報の伝達と収集①	17	わが家の防災・緊急情報メモ	裏表紙

## 防災対策（市民の皆様のご協力をお願いします）

### 気象情報・防災情報などの流れ

災害に関する注意報や警報が発表されたら、市からの情報に注意してください。



### 災害に備えて

#### ●家族で防災会議をしてみましょう

##### 家族で話し合うこと

災害は、いつどこで起こるか予測しがたいものです。

災害が起こった時、被害を最小限に食い止めるためには日ごろからの備えが大切です。

万が一に備え、家族の行動、避難所や避難方法、連絡方法などを日ごろから家族でよく話し合っておきましょう。また、災害に備えて家の中と外をチェックし、危険な場所は早めに改善するようにしましょう。



- 家の中ではどこが安全か。
- 救急医療薬品や消火器などを備えているか。
- 避難するところはどこか、どのような経路を通過して避難するか。
- 避難するとき、誰が何を持ち出すのか、非常時持ち出し品はどこに置くか。
- 家族間の連絡方法と最終的に出会う場所はどこにするか。
- 昼の場合と夜の場合の避難の方法はどのようにするか。
- 家族の役割分担はどうするか。
- 地域の防災活動に参加できるかどうか。

### 発行にあたって

- この「指宿市防災ハザードマップ」は市民の皆様にとって毎日の安全・安心な生活に深く関わりのある防災情報や避難所などを紹介しております。新しく転入された方にもわかりやすく、以前からお住いの皆様にも安全・安心を実感できる暮らしの一助となるよう発行致しました。
- この冊子に掲載されている防災情報や避難所等に関するお問い合わせは、指宿市役所までご連絡ください。また情報内容が変わっている場合もありますのでご了承ください。

### 指宿市防災ハザードマップ

発行	指宿市役所 危機管理課 指宿市十町2424 TEL 0993-22-2111	制作・著作	株式会社ゼンリン 鹿児島営業所 鹿児島市中町11番4号 熊谷ビル3F TEL 099-223-0740 ©2022 ZENRIN CO.,LTD.
----	----------------------------------------------	-------	------------------------------------------------------------------------------------

無断で複写、転載することはご遠慮ください。著作権者に無断で本誌の全部、または一部を複製及び転載することは著作権法により禁止されています。

「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R2JHs 293-618号」

「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R2JHs 294-288号」

「この地図は、指宿市長の承認を得て、同市発行の都市計画図を使用し、調整したものです。（承認番号 令3指建都 第200号）」

「JIS Z 8210 広域避難場所 避難所（建物）」

#### 【お断り】

本文中の地図は弊社地図データを元に作成しております。また、住宅地図による現地調査情報、編集独自の細かな情報収集も加えて制作しております。作成には細心の注意を払って編集作業を行っておりますが、データ量は膨大であり日々変化する現状と地図面が一致しない場合があります。また目標名称等は見易さを優先し正式名称などを一部割愛して表現しております。申し訳ございませんが、何卒ご了承いただきますようお願い申し上げます。

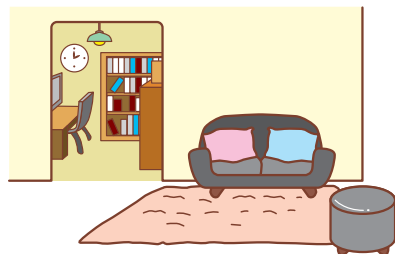


## 家の中の安全対策

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

### ！ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



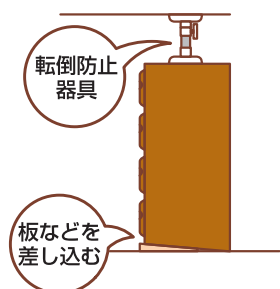
### ！ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋にはできるだけ家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具が倒れるおそれがあり危険。やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具にするとともに、寝ている場所に倒れないよう、また出入口をふさがないように、向きや配置を工夫する。



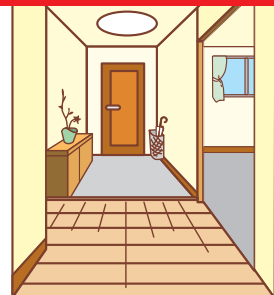
### ！ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



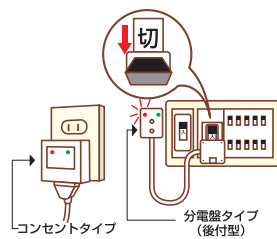
### ！ 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



### ！ 電気火災発生の防止

地震による火災の原因の多くは電気が関連。電気ストーブや電気コンロの転倒や、停電復旧時の通電火災（破損した電気コードのショートによる出火など）がある。電気火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効。



### ！ 手の届くところに防災品を備える

夜間就寝時、停電になると周囲の確認ができず危険。地震の場合はガラスが散乱したり、部屋に閉じ込められることもある。普段寝る場所から手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを。

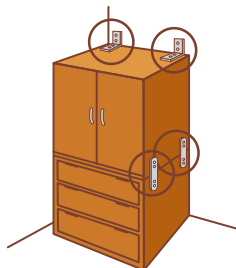


## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

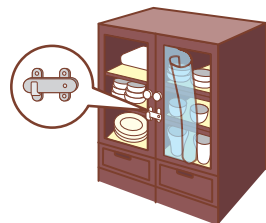
### タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



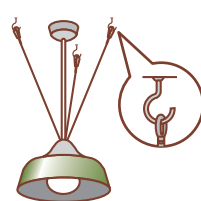
### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



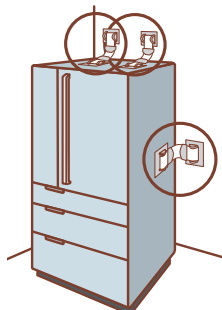
### 照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



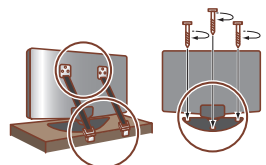
### 冷蔵庫

所定の取り付け場所（運搬用取っ手など）を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



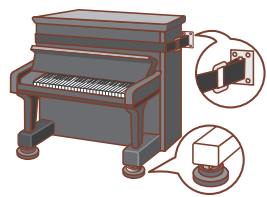
### テレビ

テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。



### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



## 家の周囲の安全対策

●以下のポイントをチェックし、適切に補修を行ってください。

### 屋根

不安定な屋根のアンテナの補強。瓦のひび、割れ、ずれ、はがれがないか。トタンのめくれ、はがれはないか。

### 雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や砂が詰まっていないか。雨戸にガタツキやゆるみはないか。継ぎ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。

### ブロック塀・門柱

土中にしっかりした基礎、控え壁のないものは補強。ひび割れや鉄筋のサビはないか。

### 外壁

板壁に腐りや浮きはないか。モルタルの壁に亀裂はないか。

### 側溝

側溝が詰まると、道路冠水や浸水の原因に。日頃からの清掃を。

### 窓ガラス

強風による飛来物などに備え、外側から板でふさぐなどの処置を。飛散防止フィルムを貼る、ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。

### ペランダ

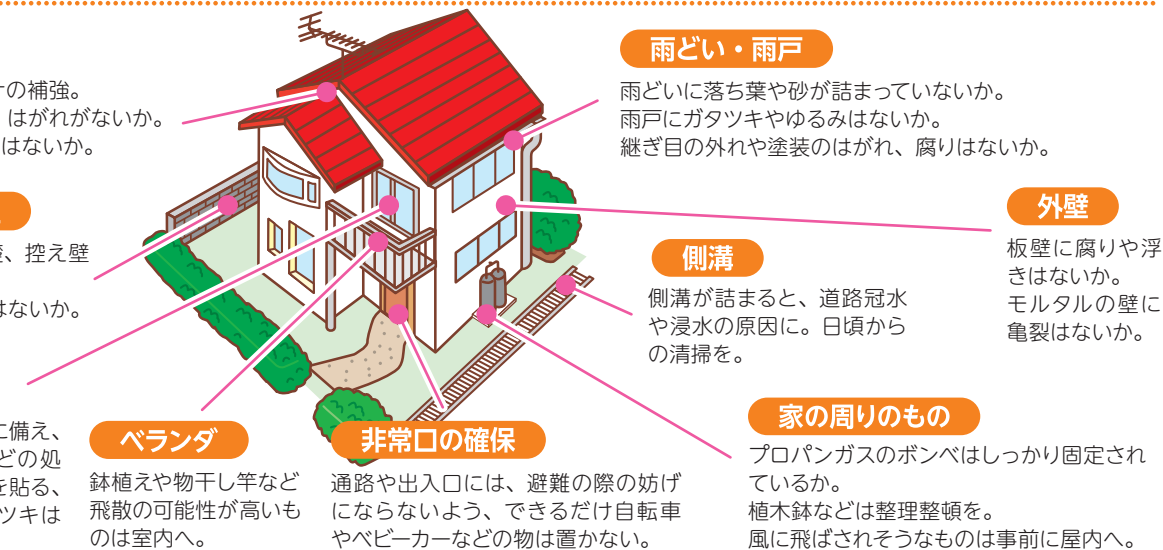
鉢植えや物干し竿など飛散の可能性が高いものは室内へ。

### 非常口の確保

通路や出入口には、避難の際の妨げにならないよう、できるだけ自転車やベビーカーなどの物は置かない。

### 家の周りのもの

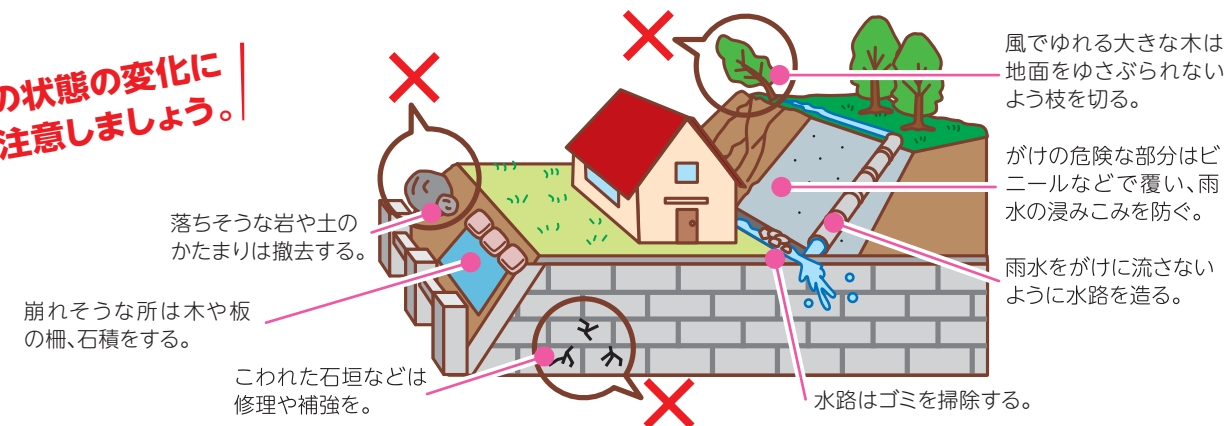
プロパンガスのボンベはしっかり固定されているか。植木鉢などは整理整頓を。風に飛ばされそうなものは事前に屋内へ。



## 土砂災害の予防策

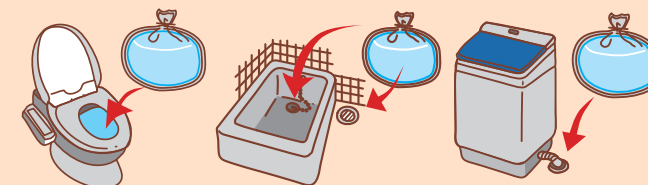
●がけや斜面の近くでは特に次のようなことを心がけましょう。

斜面の状態の変化に十分注意しましょう。



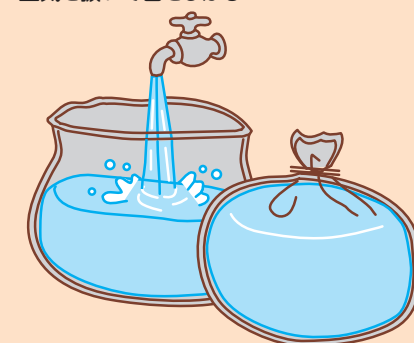
## 住宅の浸水被害を防ぐには

浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の侵入口となる場所を塞ぐことで水の侵入を減少させることができます。トイレなどの逆流防止にも有効です。※実施の際には避難の妨げにならないように気を付けてください。



### 「水のう」の作り方

40L程度のゴミ袋を二重にして半分程度の水を入れる  
空気を抜いて口をしぼる



排水口からの逆流対策に





# 備蓄品および非常持ち出し品

避難するときに最初に持ち出すのが「非常持ち出し品」。  
災害直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資が「備蓄品」です。  
以下は一例です。とくに非常持ち出し品は、持って逃げられる量にしましょう。(男性15kg 女性10kgが目安)

## 非常持ち出し品

●とっさの場合に持ち出せるようにリュックサックにつめておくもの

### 貴重品

- ・現金 ※公衆電話用に硬貨も
- ・印鑑
- ・家や車の予備鍵
- ・証書類のコピー  
(健康保険証、免許証、通帳、  
保険証書、権利書など)

### 衛生用品

- ・救急セット ※常備薬も
- ・タオル
- ・マスク
- ・消毒液
- ・体温計
- ・トイレットペーパー
- ・ウェットティッシュ
- ・ビニール袋
- ・下着類
- ・生理用品
- ・オムツ

### 情報収集用品

- ・携帯ラジオ ※予備電池も
- ・携帯電話(スマートフォン)の充電器
- ・モバイルバッテリー  
※ライト付きが便利
- ・筆記用具

### 非常飲食品など

- ・非常食 ※軽く高カロリーのもの
- ・飲料水
- ・給水袋
- ・ミルク
- ・離乳食

### 安全用品

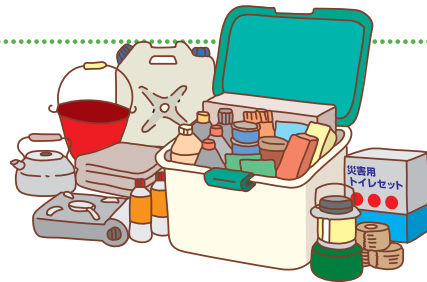
- ・懐中電灯 ※予備電池も
- ・ヘルメット・防災ずきん
- ・軍手
- ・スリッパ
- ・笛やブザー ※居場所を知らせるもの
- ・マッチ・ライター
- ・毛布・保温シート
- ・使い捨てカイロ



## 備蓄品

●少なくとも3日(できれば1週間)は自力で生活できるように準備

- ・飲料水 ※1人1日3ℓ
- ・食品 ※レトルト食品、長期保存食品など専用品の他、  
下記ローリングストックの活用を
- ・給水用ポリタンク・バケツ
- ・カセットコンロ・ガスボンベ
- ・使い捨ての食器類
- ・食品用ラップ
- ・ランタン
- ・災害用トイレセット
- ・からだ拭きシート
- ・水のいらないシャンプー
- ・ガムテープ
- ・ビニールシート



上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。

## 定期的に点検を!

いざというときに支障がないように食品類の賞味期限や  
持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

## ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、  
普段から少し多めに食料品や日用品を買っておき、  
使った分だけ新しく買い足していくことで、  
常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことを  
ローリングストックと言います。  
日常生活の中に、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

—対象品目の例—

- ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、  
インスタント食品、お菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物
- カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、  
トイレットペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、  
乾電池、使い捨てカイロ



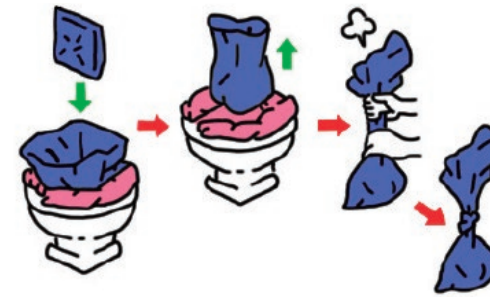
# 災害時のトイレ

## トイレ問題は「待たなし」携帯トイレを必ず備えよう

「災害の備え」と言えば、食料や水を真っ先に思い浮かべる人が多いと思います。しかし、水や食料をとれば、生理現象として必ず「排泄」が生じます。その時、断水が起きていれば水洗トイレは使えません。過去の災害では、衛生上やプライバシーの問題から、避難所等に設置される仮設トイレの使用を拒否、控える人が続出し、結果的に体の不調を起してしまうケースが多発しました。そこで、便器にかぶせて使える「携帯トイレ」を備えておきましょう。自宅が安全で避難生活が送れるようであれば、家のトイレに設置して使用することができます。安心して安全なトイレ空間を作ること、被災後の生活ではとても重要なことです。

### 非常用トイレを使うコツ・選ぶコツ

#### 使うコツ



便器にゴミ袋を敷きその上から設置。  
非常用トイレだけを交換すれば、水が床に落ちません。

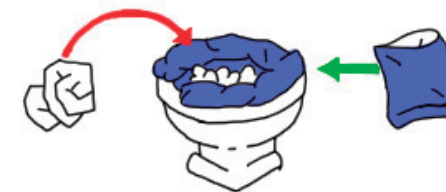
#### 選ぶコツ



3つの機能がポイント!

### 非常用トイレが足りなくなったら

#### ゴミ袋+新聞紙



ゴミ袋や新聞紙などを使い、便器に工夫をして使用する。

### 家の便器が使えないときは

#### ダンボールトイレ



ダンボールなどを利用して、  
簡易的なトイレをつくる。

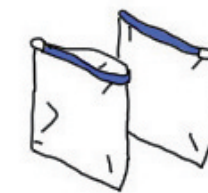
## 備えておくと便利なトイレグッズ



消毒液



ウェットティッシュ



保管用密閉袋



おしりふき



トイレットペーパー



消臭剤



除菌洗浄剤



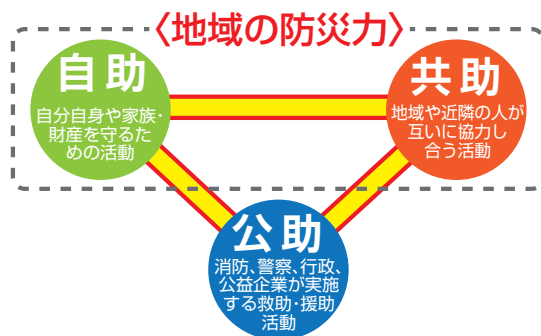
LEDランタン



地域の防災力 ●災害に強い地域をつくりませんか？

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える(自助)とともに、地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」の活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取り組みを始めてみませんか？



1. 自主防災組織とは？

2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 災害発生時にはもちろん、日ごろから地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食・給水などの活動を行います。



○大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。より効率よく、さまざまな活動をするために事前の準備(体制づくり)が重要です。

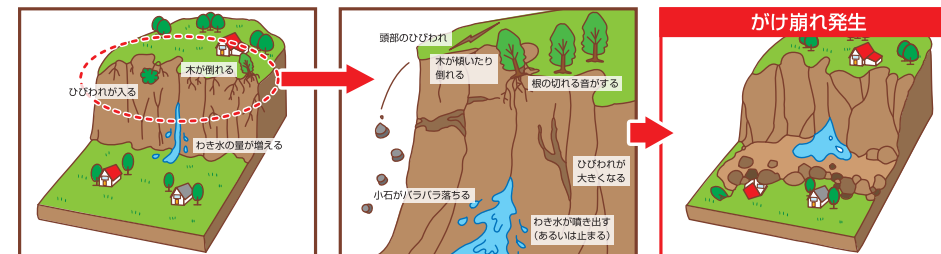
○各班の平常時(日ごろ)と緊急時(災害発生時)の活動内容は概ね次のような役割になります。

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
<b>平常時</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民に対しての連絡体制、手段の検討</li> <li>○情報収集・伝達訓練の実施</li> <li>○防災意識の啓発、高揚に関する広報</li> <li>○公的防災機関との連携確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初期消火訓練の実施</li> <li>○消火用水の確保、確認</li> <li>○出火防止の啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に避難路、避難場所を把握</li> <li>○避難誘導訓練の実施</li> <li>○避難路の安全点検</li> <li>○<b>危険箇所(がけ、ブロック崩)</b>などの確認等</li> <li>○避難行動要支援者の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○応急手当、衛生知識の普及</li> <li>○救命講習への参加</li> <li>○応急医薬品、救助資機材の確保、点検</li> <li>○技能、ノウハウを持った住民の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発</li> <li>○炊き出し訓練の実施</li> <li>○炊き出し用資機材の確保、点検</li> </ul>
<b>緊急時</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達</li> <li>○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告</li> <li>○混乱回避、出火防止等の広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初期消火活動</li> <li>○<b>消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本です。無理はしないこと!!</b></li> <li>○情報班と連携しての出火防止等の広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報班と連携しての避難の呼びかけ</li> <li>○安全な経路を選択しての避難誘導</li> <li>○避難行動要支援者の避難支援</li> <li>○避難地での安否確認</li> <li>○安否確認による救出救護班への情報伝達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難誘導班と連携しての速やかな救出</li> <li>○<b>救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意してください。</b></li> <li>○負傷者の搬送、応急手当の救護</li> <li>○避難所・救護所での救護活動への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料や水、救援物資等の受入、配布</li> <li>○必要に応じて炊き出し</li> </ul>

土砂災害の種類

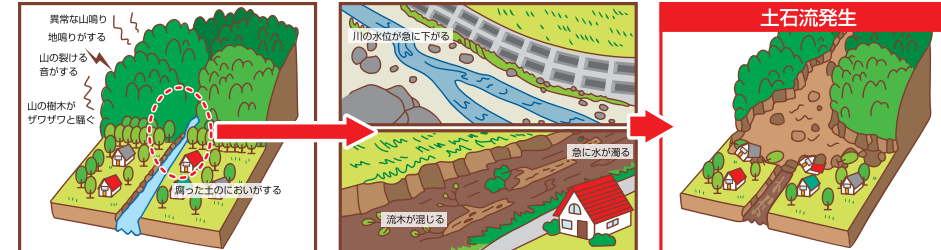
がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



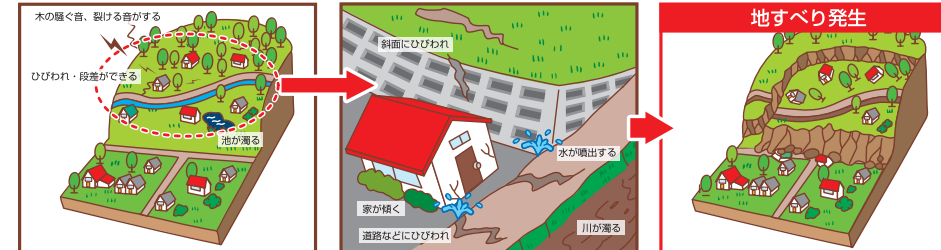
土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

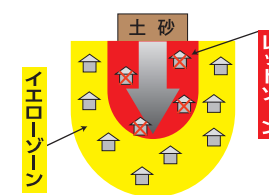
斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。



避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前には感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

- 1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。
- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。
- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。



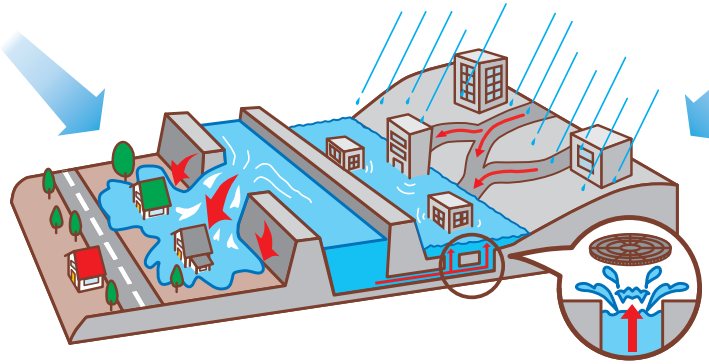


## 氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。



### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水は、けされず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。

## 洪水(二反田川)避難基準

発令種類	発令基準	警戒レベル	気象警報等
緊急安全確保	大雨により、災害が発生、または重大な災害が起こる恐れが著しく大きいとき。	レベル5	大雨特別警報(浸水害)
避難指示	3時間先までに二反田川の流域雨量指数が警報基準を大きく超過した基準に到達すると予想される時。	レベル4	洪水警報
高齢者等避難	3時間先までに二反田川の流域雨量指数が警報基準に到達すると予想される時。	レベル3	

※上記基準のほか、河川の水位等も踏まえ発令されます。

## 避難行動のポイント、危険な場所

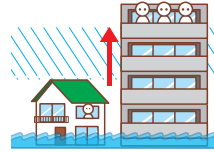
### ！ 浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



### ！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。



### ！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



### ！ 川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子を確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。



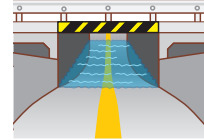
### ！ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。



### ！ アンダーパスは危険

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。



## 津波警報・注意報

津波から命を守るためには、「強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら」、「揺れが無くても津波警報を見聞きしたら」・・・避難指示を待たずにすぐに避難!!

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報が発表されます。その後「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報が発表されます。

## 津波警報・注意報の分類ととるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超(10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や津波避難目標など安全な場所へ避難する。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れない。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m(5m<高さ≤10m)			
	5m(3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m(1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m(20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れる。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付かない。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

## 避難時の心得

### 高い場所へ速やかに避難する

より高い場所へ、より海から遠い場所へ速やかに避難する。



### 河川や海岸には近づかない

地震の発生や、警報・注意報が発表された場合、海岸や河川は危険です。釣りや海水浴を行っている方は、速やかに海岸から離れ、高い場所へ避難する。



### なるべく徒歩で避難する

車では渋滞や危険を招く可能性があるため、なるべく徒歩で避難する。

### 正しい情報を入手する

防災行政無線やテレビ、ラジオなどから正しい情報を入手する。



### 避難指示に従う

避難指示が発令されたらただちに指示に従い、安全で高い場所に速やかに避難する。





## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

**地震発生**

**とにかく自分の身を守ろう!**  
**地震だ! まず身の安全**  
 大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待つ。

**2~5分**  
**しっかり火の始末で、火災防止!**  
**大揺れがおさまった**  
 台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉める。

**5~10分**  
**わが家の安全確認、確保!**  
**火の始末のあと**  
 家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保する。

**10分~半日**  
**隣近所の安否確認、助け合い!**  
**外に出たあと**  
 家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行う。

**半日~3日**  
**2,3日は自分でしのぐ!**  
**避難後、数日間**  
 地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えるので、この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておく。

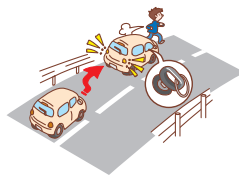


## 屋内にいた場合

- 家の中**
- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
  - 揺れがおさまったら火の確認をすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
  - 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
  - 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。
- デパート・スーパー**
- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- 劇場・ホール**
- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。
- 集合住宅**
- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
  - 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

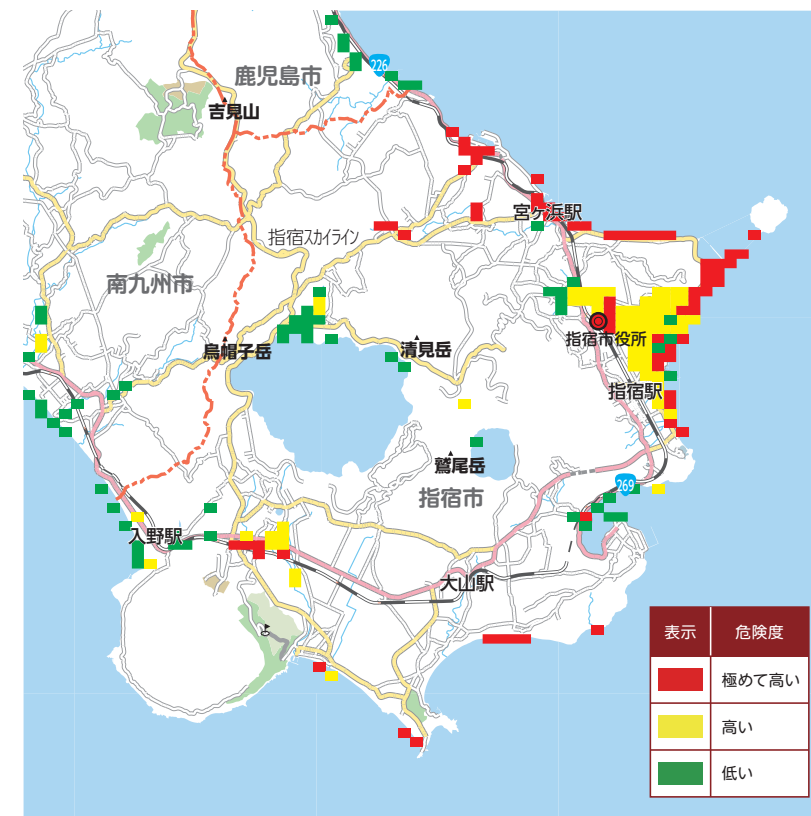
## 屋外にいた場合

- 路上**
- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
  - 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
  - ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
  - 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。
- 車を運転中**
- ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
  - 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
  - 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



地震が発生すると、海・河川の近くや埋立地では、地下水が噴出し地面が液体のように液状化することがあります。液状化現象が発生すると、地盤が建物を支える力を失い、建物が傾いたり、大きな被害が発生します。

## 指宿市の液状化危険度マップ



▲ 種子島東方沖地震の液状化可能性分布



▲ 南海トラフ【陸側ケース】地震の液状化可能性分布

### 想定される地震 ①

#### ◆ 種子島東方沖地震

震源近傍の種子島、曾於市、志布志市の多くの地域で震度6弱以上の揺れが想定され、一部の地域で震度6強に達すると想定される。本市では、一部の地域で震度6弱の揺れが想定され、地震による揺れ、地盤の液状化による建築物への多大な被害が想定される。



### 想定される地震 ②

#### ◆ 南海トラフ地震

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南部海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのプレートが接する海底の南海トラフで起きる地震。本市では、震度4~5強の揺れが予測され、津波も最大で4.5mの高さが予測される。

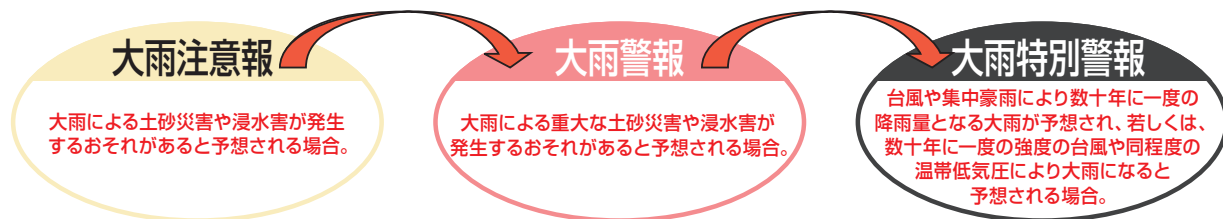




大雨や台風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

## 大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

### 大雨注意報・警報・特別警報の発表基準



特別警報は大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。

### 非常事態 特別警報が発表されたら

- ・尋常ではない大雨が予測されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

## 雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm以上~20mm未満	20mm以上~30mm未満	30mm以上~50mm未満	50mm以上~80mm未満	80mm以上~
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

## 風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上~15m/秒未満	15m/秒以上~20m/秒未満	20m/秒以上~25m/秒未満	25m/秒以上~30m/秒未満	30m/秒以上~
やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。	

## 台風

日本には、毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらしています。台風の接近が予測される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

(平均風速:m/秒)

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/秒以上~44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

## 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は難しく、中小河川の氾濫、土砂崩れ、かけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆非常時持ち出し品を準備しておく。
- ◆危険な地域では、いつでも避難できるよう準備する。
- ◆停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆浸水に備え、家財道具は高い場所へ移動する。

### 記録的短時間大雨情報

県内で数年に一度しか発生しないような猛烈な短時間の大雨を観測又は解析したときに、府県気象情報の一種として発表されます。(発表基準:鹿児島県は120mm/1時間雨量)

## 開聞岳の火山活動

開聞岳は、約4,400年前に噴火をはじめ、初期の活動は浅い海域での水蒸気マグマ噴火でした。溶岩を流出する噴火を繰り返し、約2,500年前には、現在とほぼ同じ規模の山体が完成していたものと推定されています。約2,000年前と1,500年前の活動では噴出量が多く、成層火山帯の形成に大きく寄与しました。その後、歴史に残る874年及び885年の噴火で山頂付近の地形が大きく変化し、噴火末期に火口内に溶岩ドームが形成されました。近年では、1967(昭和42)年8月に群発地震が発生し、2000(平成12)年12月には山頂の東側2か所と西側2か所の岩穴から噴気が上がりました。また、市内には開聞岳のほか、池田・山川(池田カルデラ、池底、松ヶ窪、鰻池、山川のマール群、鍋島岳等)の活火山が存在しています。

## 記録に残る火山活動

開聞岳の主な火山活動として、以下のような記録が残っています。

- 874(貞観16)年 3月25日: 大噴火(爆発音、降灰砂)
- 885(仁和元)年 8月25日: 大噴火(降砂石)
- 1967(昭和42)年 8月5日~8日: 群発地震
- 2000(平成12)年 12月12日~12月下旬: 噴気



上空から見た開聞岳

出典: 気象庁ホームページ

## 規制内容別避難発令基準

種別	名称	対象範囲	警戒事項等(キーワード)	火山活動の状況	規制・発令	住民等の行動	登山者等への対応
特別警報	噴火警報(居住地域) または 噴火警報	居住地域及びそれより火口側	居住地域及びそれより火口側の範囲における 厳重な警戒 居住地域 厳重警戒	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	避難指示 (状況に応じて対象地域等を判断)	危険な居住地域からの避難等が必要。	—
					高齢者等避難 (状況に応じて対象地域等を判断)	警戒が必要な地域での避難準備、要配慮者の避難が必要。	
警報	噴火警報(火口周辺) または 火口周辺警報	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺における警戒 入山危険	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	入山規制 (状況に応じて規制範囲を判断)	今後の火山活動の推移に注意しながら通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備等を行う。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等及びその周知。
		火口から少し離れたところまでの火口周辺	火口から少し離れたところまでの火口周辺における警戒 火口周辺危険	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口周辺規制	通常の生活。	火口周辺への立入規制等及びその周知。
予報	噴火予報	火口内等	活火山であることに留意	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる。(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ。)	特になし (火山活動の状況に応じて火口内への立入規制等)	通常の生活。	状況に応じて火口内への立入規制等及びその周知。



## 初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

### 1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

### 2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。



### ◆火元別初期消火のコツ

#### 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

#### 石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

#### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すの方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

#### 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

#### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

#### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけた上で消火を。

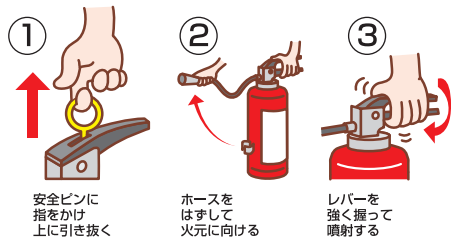
### 3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、消火の限界。速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 一酸化炭素などの有毒ガスを含んだ煙を吸い込まないように低い姿勢でマスク・タオル等で口をふさいで逃げる。



## 消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



### ◆消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



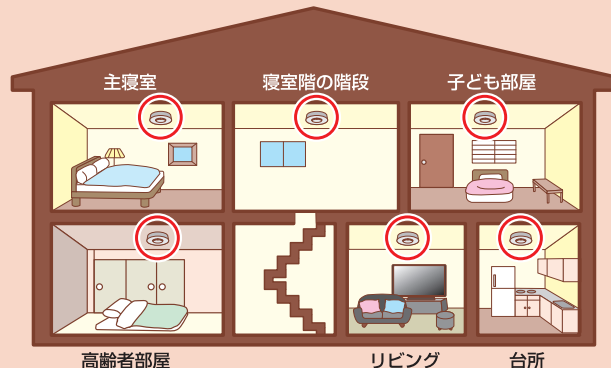
## ◆火災予防が一番!!

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

### 住宅用火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- リビング、台所…設置が望ましいです。

注意：種類によって異なりますが、住宅用火災警報器の交換時期は、おおむね10年です。早めの交換をお願いします。



警戒レベルについて 警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 ・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません! ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報 大雨特別警報(土砂災害)
~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難! > ~~~~~					
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4相当	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ・「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。 ・さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3相当	氾濫警戒情報 洪水警戒情報 大雨警戒情報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2相当	氾濫注意情報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当	

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では、発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても、警戒レベルに相当する気象情報を認識し、危険を感じたら早めに避難行動をとってください。大切なことは「自分で判断する」ということです。

**警戒レベル5**はすでに災害が発生・切迫している状況です。また、必ず発令されるものではありません。

**警戒レベル3 高齢者等避難**や**警戒レベル4 避難指示**で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。



(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)



特別警報について

警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれ著しく高まっている場合、気象庁は「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。

◆特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

◆地震警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

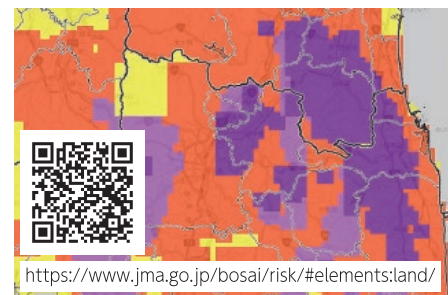
特別警報が発表されたら

- ① 尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ② 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ③ ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

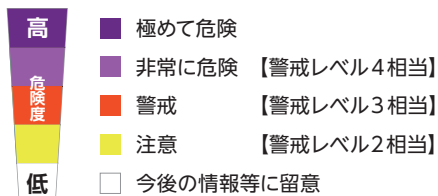
キキクル(危険度分布)について

どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。

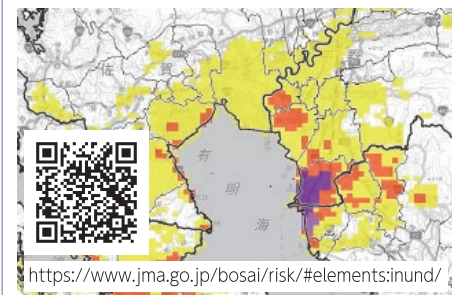
土砂キキクル 大雨警報(土砂災害)の危険度分布



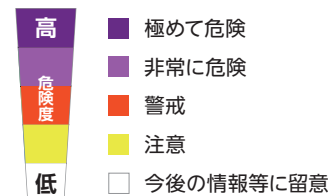
紫：崖・溪流の近くは危険



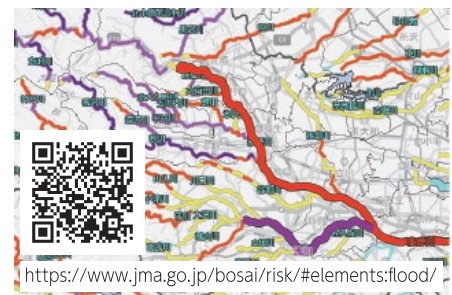
浸水キキクル 大雨警報(浸水害)の危険度分布



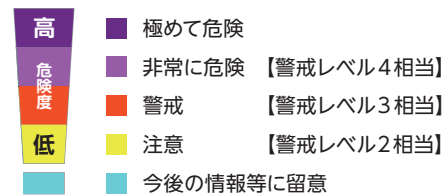
紫：低地は危険



洪水キキクル 洪水警報の危険度分布



紫：河川沿いは危険



※使用している携帯電話・アプリケーションによっては二次元バーコードの読み取りができない場合があります。(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)

災害等緊急情報入手や災害への備えとして

▼インターネット

指宿市



指宿市ホームページ  
https://www.city.ibusuki.lg.jp/

Yahoo!防災速報



豪雨情報など様々な災害情報をプッシュ通知でお知らせします。  
Yahoo!防災速報：https://emg.yahoo.co.jp

災害時も安心 地域の情報はMBCデータ放送をご覧ください

指宿市からのお知らせをチェック!



MBCアプリとの連携

データ放送に掲載の情報はMBCアプリでもご覧いただけます。

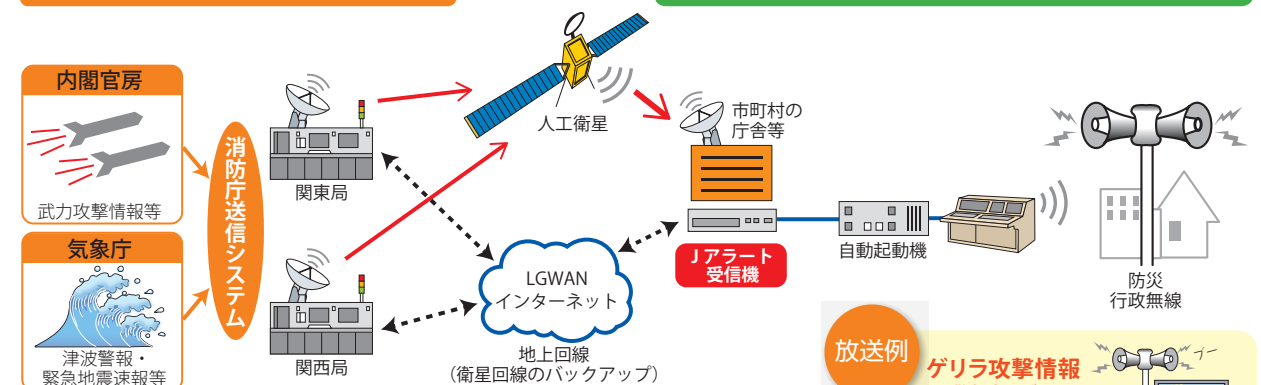


トップ > 暮らしの情報 > 市町村情報 > 指宿市を選択

さまざまな情報伝達機器で瞬時に緊急情報を伝えるJアラート

国に設置

地方公共団体に設置



Jアラートとは

弾道ミサイル情報、大津波警報、緊急地震速報等の緊急情報を、人工衛星を用いて国(内閣官房・気象庁から消防庁を経由)から送信し、市区町村の防災行政無線や携帯メール、コミュニティFM等を自動起動させるもので、国から住民まで緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。

災害での活用事例

- 東日本大震災で大津波警報をJアラートで受信し、防災行政無線から自動放送されたことで、スムーズに避難誘導が行われ、住民の命が救われた事例が見られた。
- 平成24年12月、北朝鮮による「人工衛星」と称するミサイル発射情報と通過情報を、Jアラートを通じて瞬時に沖縄県内の住民に伝達した。

放送例

**ゲリラ攻撃情報**  
警告音：ブーン  
ゲリラ攻撃情報。ゲリラ攻撃情報。当地域にゲリラ攻撃の可能性がります。屋内に避難し、テレビ・ラジオをつけてください。

**大津波警報**

警告音：ウーン ウーン ウーン

大津波警報が発表されました。海岸付近の方は高台に避難して下さい。

**緊急地震速報**

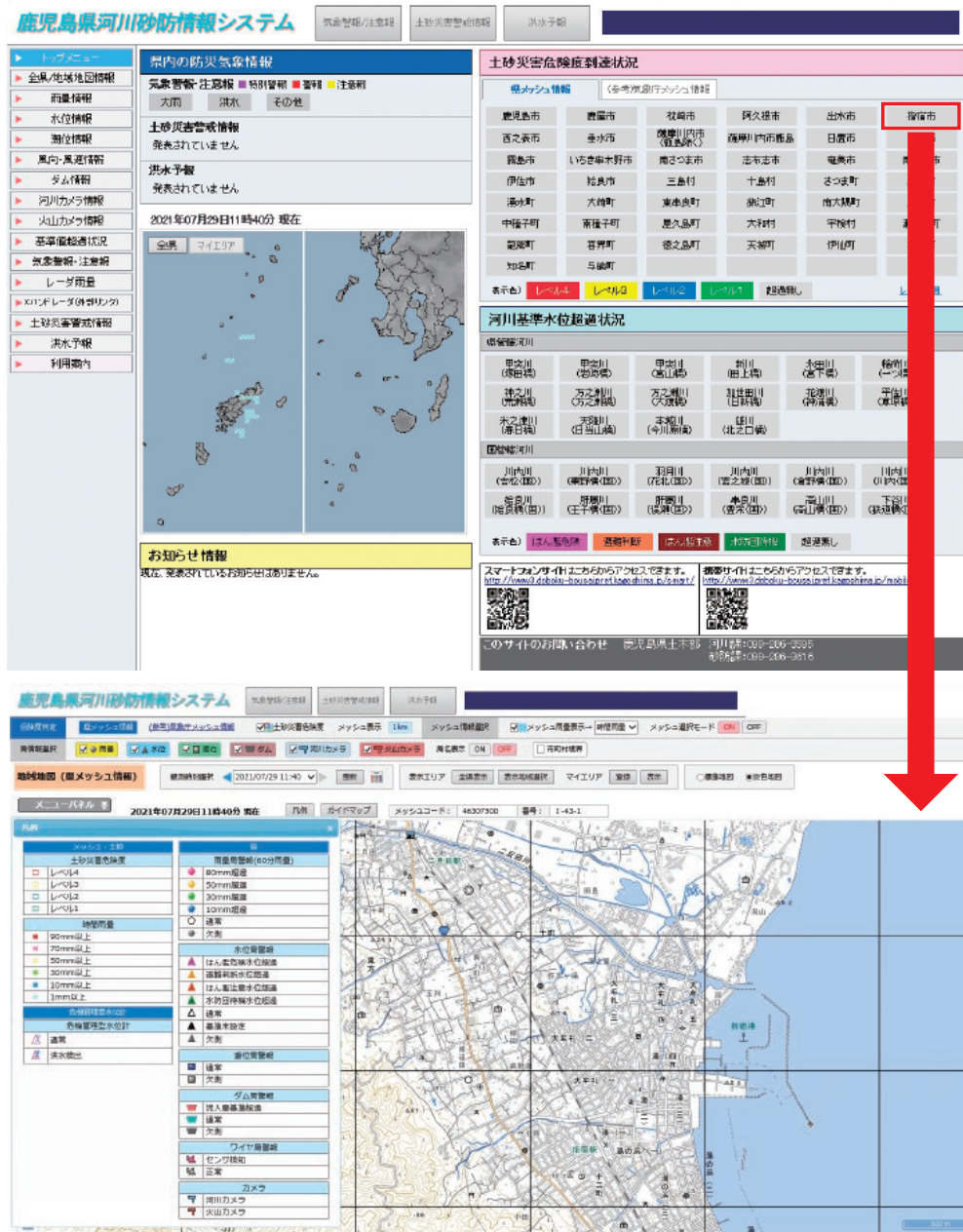
警告音：ピロンピロン  
ピロンピロン  
緊急地震速報。大地震です。大地震です。



防災気象情報の収集

鹿児島県では、県内に設置してある雨量計、水位計の観測データをリアルタイムでご覧いただくことができるWEBサイト(下記リンク「鹿児島県河川砂防情報システム」)を公開しています。

鹿児島県河川砂防情報システム	
パソコンの場合	<a href="http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/bousai/jsp/index.jsp">http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/bousai/jsp/index.jsp</a>
スマートフォンの場合	<a href="http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/smart/">http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/smart/</a>



その他の防災気象情報

- 土砂災害警戒区域等マップ(鹿児島県)  
URL : <http://sabomap.pref.kagoshima.jp/kagoshima/>
- 鹿児島地方気象台  
URL : <http://www.jma-net.go.jp/kagoshima/>

緊急時の連絡先

火事・救急は 119番

警察は 110番

名称	電話番号	住所
指宿市役所	0993-22-2111	鹿児島県指宿市十町2424
指宿警察署	0993-22-2110	鹿児島県指宿市西方1602番地1
指宿消防署	0993-22-5111	鹿児島県指宿市十町429番地

連絡方法の確認

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

災害用伝言ダイヤルとは?

災害用伝言ダイヤルの使い方

NTTでは、災害発生時に被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

伝言の録音	171-1-0000(00-0000)(被災地の方の電話番号)	伝言保存期間	提供終了まで
伝言の再生	171-2-0000(00-0000)(被災地の方の電話番号)	伝言蓄積数	1電話番号あたり20伝言まで
伝言内容(時間)	1伝言あたり30秒以内	利用可能電話	一般電話(プッシュ回線、ダイヤル回線)、公衆電話、携帯電話(一部除く)等

※伝言蓄積数や保存期間は、災害の状況により異なります。

- 一般社団法人電気通信事業者協会《災害時の電話の利用方法》 <https://www.tca.or.jp/information/disaster.html>
- NTT西日本《災害用伝言ダイヤル171》 <https://www.ntt-west.co.jp/dengen/>
- NTT西日本《災害用伝言板web171》 <https://www.web171.jp>
- NTTドコモ《災害用伝言板サービス》 [https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster\\_board/index.html](https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board/index.html)
- au《災害用伝言板サービス》 <https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengen/>
- SoftBank《災害用伝言板サービス》 <https://www.softbank.jp/mobile/service/dengen/>

体験サービス期間

- 毎月1日、15日(0:00~24:00)
- 正月三が日(1月1日 12:00~1月3日 24:00)
- 国の「防災週間」(8月30日~9月5日)及び「防災とボランティア週間」(1月15日~1月21日)

※災害用伝言板が運用中のときは、体験サービスは使用できません。



！ **警戒レベル3高齢者等避難**や**警戒レベル4避難指示**が出たら、危険な場所から避難しましょう。

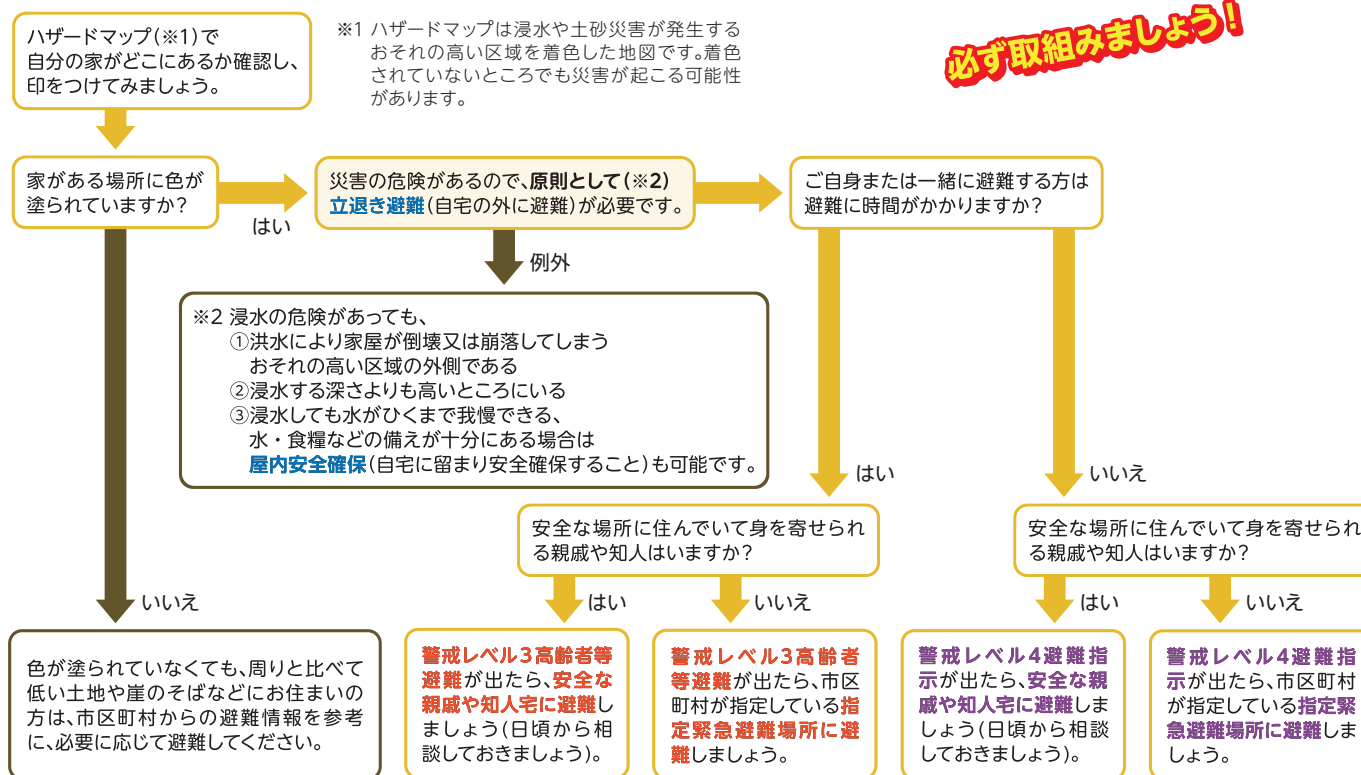
！ **避難とは難を避ける**ことです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

！ 避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

## ◆避難行動判定フロー

普段から確認 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動を確認しましょう。

●あなたがとるべき避難行動は？



## 自宅の外へ避難する際の留意点

### ！ 避難するときの服装

- ヘルメット、帽子等をかぶる。
- 非常持ち出し袋はリュックサックに入れて背負う。(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- やむをえず夜間に移動の際は懐中電灯を持つ。

### ！ 避難時のポイント

- 自宅を離れる前にもう一度火元を確認する。
- ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを落とす。
- 持ち出す荷物は最小限にする。
- 近所の人に声をかけ、複数人で行動する。
- 避難先へは、徒歩で移動する。(自動車、自転車はできる限り使用しない)
- 狭い道やブロック塀、自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける。
- 子ども、障がい者、高齢者など避難行動要支援者がはぐれないよう配慮をしながら避難する。

上記は一般的な避難留意点です。各災害に応じた留意点も、個別ページでご確認ください。

(ページ内の図表は内閣府ホームページより抜粋、編集)

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。その際には、子どもや高齢者などの保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

## 避難に対する基本的な考え方

### 避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。

### 命を守る最低限の行動とは

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動 **①水平避難** だけでなく、**命を守る最低限の行動** **②垂直避難** が必要な場合もあります。



## 避難行動要支援者の安全な避難誘導

### ■高齢者や寝たきりの方

- ・あらかじめ災害時の協力者を決めておき、できるだけ複数人で対応できるようにしましょう。
- ・車いすや担架を使うほか、緊急時にはおぶって避難しましょう。



### ■病气やけがをしている方

- ・状況に応じて、声をかける、肩を貸す、手をそえるなどの協力をしましょう。



### ■目の不自由な方

- ・「お手伝いしましょうか」とまず、声をかけましょう。
- ・誘導するときは、腕を貸してゆっくりと歩きましょう。



### ■耳の不自由な方

- ・正面から口を大きく動かして話しかけるようにしましょう。
- ・口頭で伝わりにくいときは、身ぶり手ぶりや筆談で正確な情報を伝えましょう。



### ■車いすを利用している方

- ・階段では2人以上で援助し、上りは前向き、下りは後ろ向きで移動しましょう。
- ・協力者が1人の場合はおぶって避難しましょう。



### ■日本語が十分でない外国人の方

- ・孤立させないよう、日本語でもいいので声をかけるようにしましょう。
- ・言葉が通じない場合は、身ぶり手ぶりで伝え、道順などは手で方向を示してあげましょう。



## 避難行動要支援者とは

高齢者や障がい者、傷病者、乳幼児、外国人などのうち、災害発生時に何らかの支援が必要な人を避難行動要支援者といいます。この避難行動要支援者を災害から守るために地域で協力し合いながら、その人の状態・状況に応じた配慮や支援が積極的に行えるようにしましょう。



避難所では限られたスペースでの共同生活となりますので、マナーやルールを守ることが大切です。避難者同士のプライバシーを守りながら、譲り合いの心を持って助け合い、協力、配慮が必要です。

## 共同生活の注意点

### 所持品

- ・トラブル防止のため所持品に名前を書く。
- ・所持品は、1箇所にまとめ、すぐ持ち出せるようにする。



### ルール

- ・大災害の際は、職員やボランティアが不足する場合があります。共同生活に必要な役割は、みんなで協力する。
- ・水道が使えない場合は、飲み水や生活用水の確保が必要なため大切に使う。
- ・障がいのある人や高齢者、妊産婦などには、手助けをする。
- ・居住スペースは、個人のプライバシーを守る。
- ・避難所のトイレは多くの方が使用しますので、ルールを守る。
- ・不審者を見つけたら、警察や避難所の管理者、リーダーに連絡する。
- ・避難所から別の場所へ移動するときは、必ず避難所にいる職員及び管理者等に一声かける。



### マナー

- ・物資が支給される場合は、列に並び、自分の順番を待つ。
- ・掃除は定期的に行い、清潔な状態を保つ。
- ・喫煙は、所定の場所で行う。
- ・ペット同伴の方は、避難所のルールを守り、飼い主が責任を持って世話をを行う。



### 食中毒

- ・食中毒は1年中発生するので、石鹸で十分に手を洗う。
- ・食器、調理器具は、使用后や作業が変わるたびに洗浄と消毒を行う。



### 感染症

- ・集団生活のため、風邪やインフルエンザなどの感染症が流行しやすくなるので、こまめにうがいや手洗いを行い、できるだけマスクを付ける。



### 体調管理

- 【エコノミークラス症候群】  
予防対策として、体を動かす。座ったままでも足や足の指先を動かすなど足の運動を行い、十分な水分をとる。
- 【熱中症】  
予防対策として、水分をこまめにとり、塩分もほどよくとる。涼しい服装に心がけ、室内でも温度に注意する。



避難された方は、感染症予防のために、次のような基本的な感染症対策を徹底しましょう。

### 手洗い

#### 正しい手の洗い方

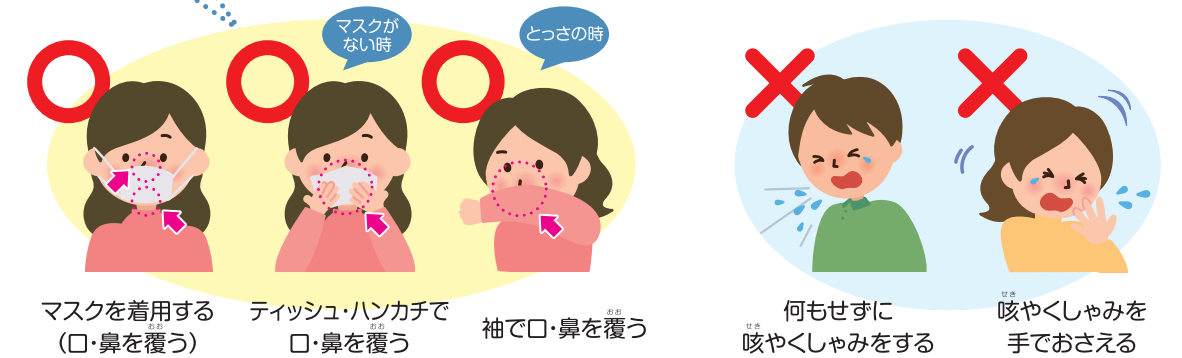


石鹸で洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

### 咳エチケット

#### 3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まるところでやろう



### マスク着用

#### 正しいマスクの着用




### 十分な換気の実施とスペースの確保

避難所内は、十分な換気に努めるとともに、十分なスペースが確保できるよう、お互いに配慮しましょう。

### 避難所の衛生環境の確保

共有する物品やスペースは、定期的に、また、目に見える汚れがあるときは、避難された方々で協力して清掃するなど、避難所の衛生環境をできるだけ整えましょう。

# 避難所一覧

**指定避難所**  災害により避難した住民等を災害の危険がなくなるまで一定期間滞在させ、または災害により自宅に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させる施設。

地域	校区	避難所名称	住所	開設順	災害種別				MAP番号
					暴風	土砂	洪水	地震	
指宿	柳田	指宿市役所	十町 2424	○	○	○	○	○	7-C-2
指宿	柳田	指宿老人福祉センター	十町 2424	○	○	○	○	○	7-C-2
指宿	柳田	柳田校区公民館	十町 169-2	○	○	○	○	○	7-C-1
指宿	柳田	指宿保健センター	十町 2424	△	○	○	○	○	7-C-2
指宿	柳田	柳田小学校	十町 2454	△	○	○	○	○	7-C-1
指宿	柳田	指宿高等学校	十町 236	△	○	○	○		7-C-1
指宿	柳田	南指宿中学校	十二町 420	△	○			○	7-E-2
指宿	柳田	玉利公民館	東方 168-2	□	○	○	○		7-D-1
指宿	丹波	丹波校区公民館	湯の浜 1-4-14	○	○	○	○	○	10-A-6
指宿	丹波	丹波小学校	湯の浜 3-2-6	△	○	○	○	○	10-A-6
指宿	丹波	砂むし会館砂楽	湯の浜 5-25-18	△	○	○	○	○	10-B-7
指宿	丹波	時遊館 COCCO はしむれ	十二町 2290	△	○	○	○	○	10-B-6
指宿	丹波	指宿図書館	十二町 2190	△	○	○	○	○	10-A-5
指宿	丹波	ビジターセンター	湊 2-5-33	△	○	○	○		7-E-4
指宿	丹波	丈六生活改善センター	十二町 3402	□	○				10-B-6
指宿	丹波	ホワイトホールなかこうじ	十二町 2343-1	□	○				10-A-5
指宿	丹波	大牟礼地区公民館	湊 4-2-19	□	○	○	○	○	7-E-4
指宿	魚見	魚見校区公民館	西方 3246-1	○	○			○	4-E-3
指宿	魚見	魚見小学校	東方 11017	△	○			○	7-A-3
指宿	魚見	指宿市総合体育館	東方 12000	△	○	○	○	○	7-B-6
指宿	魚見	ふれあいプラザなのはな館	東方 9300-1	△	○	○	○	○	7-C-4
指宿	魚見	下吹越集会施設	西方 4100-2	□	○	○	○		4-E-2
指宿	指宿	指宿校区公民館	西方 2458	○	○	○	○		3-E-7
指宿	指宿	指宿小学校	西方 4692-1	△	○	○	○	○	3-C-8
指宿	指宿	北指宿中学校	西方 2329	△	○	○	○	○	4-E-1
指宿	指宿	田之畑営農研修センター	東方 1944-3	□	○				6-B-7
指宿	指宿	垂門集会施設	西方 6158-1	□	○	○	○		3-D-6
指宿	指宿	宮之前営農研修センター	西方 5114-1	□	○	○	○		3-D-6
指宿	指宿	久保集会施設	西方 8195-1	□	○				3-D-4
指宿	今和泉	今和泉校区公民館	岩本 2822-1	○	○			○	3-A-5
指宿	今和泉	今和泉小学校	岩本 2739	△	○			○	3-A-4
指宿	今和泉	指宿商業高等学校	岩本 2747	△	○			○	3-A-4
指宿	今和泉	岩本漁村センター	岩本 31	△	○	○	○		3-A-6
指宿	今和泉	西指宿中学校	新西方 1534-2	△	○	○	○	○	3-D-3
指宿	今和泉	小牧営農研修センター	小牧 524-5	□	○				1-E-5
指宿	今和泉	細田西集会施設	新西方 1355-4	□	○	○	○		3-C-4
指宿	池田	池田校区公民館	池田 3986	○	○	○	○		5-A-7
指宿	池田	池田小学校	池田 3980	△	○	○	○	○	5-A-7
指宿	池田	下門地区農村総合管理施設	池田 361-1	□	○	○	○		3-E-1
指宿	池田	中浜営農研修センター	池田 5264-4	□	○				5-D-5


**指定避難所** 

地域	校区	避難所名称	住所	開設順	災害種別				MAP番号
					暴風	土砂	洪水	地震	
山川	山川	山川文化ホール	山川新生町 35	○	○	○	○	○	13-A-5
山川	山川	成川区民センター	山川成川 1182-1	○	○	○		○	10-E-2
山川	山川	小川区集落センター	山川小川 210	○	○	○	○		12-B-7
山川	山川	徳光公民館	山川岡児ヶ水 331	○	○	○	○		15-A-5
山川	山川	利永集落センター	山川利永 468	○	○	○	○		12-A-3
山川	山川	旧山川小学校	山川福元 558-1	△	○	○	○	○	13-B-5
山川	山川	山川中学校	山川成川 2350	△	○	○	○	○	13-B-2
山川	山川	山川小学校	山川成川 3260	△	○	○	○	○	12-A-8
山川	山川	山川勤労者体育センター	山川成川 2618-1	△	○	○	○	○	13-A-2
山川	山川	山川図書館	山川成川 2685	△	○	○	○	○	13-A-1
山川	山川	山川武道館	山川成川 2615	△	○	○	○	○	13-A-2
山川	山川	JA いぶすき小川購買店舗	山川小川 577	△	○	○	○		12-A-7
山川	山川	JA いぶすき中央配送センター	山川大山 3332	△	○				12-B-6
山川	山川	旧徳光小学校	山川岡児ヶ水 218-1	△	○	○	○	○	15-A-5
山川	山川	旧利永小学校	山川利永 172-2	△	○	○	○	○	12-A-3
山川	山川	山川老人福祉センター	山川福元 3581	△	○	○	○	○	13-E-1
山川	山川	山川高等学校	山川成川 3423	△	○	○	○		13-A-1
山川	山川	福元公民館	山川新生町 57	□	○	○	○		13-B-5
山川	山川	鰻地区避難施設	山川成川 6303	□	○		○	○	10-B-1
山川	山川	大山集落センター	山川大山 3333	□	○		○		12-B-6
山川	山川	浜児ヶ水集落センター	山川浜児ヶ水 250	□	○	○	○		12-E-6
山川	山川	尾下公民館	山川利永 1349	□	○				9-B-5
山川	山川	町区公民館	山川入船町 11	□	○	○	○		13-A-5
開聞	開聞	開聞コミュニティ消防センター	開聞十町 2867	○	○	○	○		11-A-5
開聞	開聞	開聞総合体育館	開聞十町 2613	△	○	○	○	○	11-B-5
開聞	開聞	市役所開聞支所	開聞十町 2867	○	○	○	○	○	11-B-6
開聞	開聞	開聞小学校	開聞十町 2399	△	○	○	○	○	11-A-5
開聞	開聞	開聞中学校	開聞十町 2561	△	○	○	○	○	11-B-6
開聞	開聞	脇浦公民館	開聞十町 4502	□	○	○	○		11-B-3
開聞	開聞	十町西部地区営農研修センター	開聞十町 4811-3	□	○	○	○		11-A-3
開聞	開聞	物袋青少年研修センター	開聞十町 5208-2	□	○				8-E-1
開聞	開聞	下仙田地区農村研修センター	開聞仙田 2270-6	□	○	○	○		11-A-7
開聞	開聞	開聞児童館	開聞仙田 2420	□	○	○	○		8-E-7
開聞	開聞	下吉構造改善センター	開聞仙田 1989-4	□	○	○	○		8-E-7
開聞	開聞	上野地区営農研修館	開聞上野 1774	□	○	○	○		9-E-1
開聞	川尻	川尻ふれあい交流館	開聞川尻 4985	○	○	○	○	○	12-E-1
開聞	川尻	川尻小学校	開聞川尻 5530	△	○	○	○	○	15-A-1


**開設順の説明**

- ・・・台風・大雨を起因とする災害時に優先的に開設する第一開設避難所
- △・・・大規模な災害や第一開設避難所のみでは、避難所が収容できない場合などに開設する第二開設避難所
- ・・・台風・大雨のほか、地震等の突発的な災害時に市が避難所を開設するまでの間、自主防災組織等により開設可能な避難所



**指定緊急避難場所**  災害が発生、または発生のおそれがある場合に、住民等が災害から命を守るために緊急的に避難するための施設又は場所。

地域	校区	避難所名称	住所	災害種別								MAP番号
				土砂	洪水	内水氾濫	高潮	地震	津波	大規模火災	火山現象	
指宿	柳田	南指宿中学校	十二町 420				○	○	○	○	○	7-E-2
指宿	指宿	北指宿中学校	西方 2329	○	○	○	○	○	○	○	○	4-E-1
指宿	今和泉	西指宿中学校	新西方 1534-2	○	○	○	○	○	○	○	○	3-D-3
山川	山川	山川運動場	山川福元 22	○	○	○	○	○	○	○	○	13-B-6
山川	山川	成川区民センター	山川成川 1182-1	○			○	○				10-E-2
山川	山川	旧徳光小学校	山川岡児ヶ水 218-1	○	○	○	○	○	○	○	○	15-A-5
開聞	開聞	開聞小学校	開聞十町 2399	○	○	○	○	○	○	○		11-A-5
開聞	川尻	川尻ふれあい交流館	開聞川尻 4985	○	○	○	○	○	○	○		12-E-1

**津波避難目標**  津波の危険から避難するため、津波のおそれのある区域外に定めるとりあえず生命の安全確保のために避難の目標とする地点。必ずしも緊急避難場所とは一致しない。

避難目標地点	避難対象地区	MAP番号
道の駅いぶすき 第2駐車場	今和泉校区沿岸地域（瀬崎地区）	1-D-6
田之上商店付近	今和泉校区沿岸地域（麓上・麓下・岩本中・浜西・浜東地区）	3-B-5
指宿校区公民館	指宿校区沿岸地域（外城市・宮ヶ浜地区）	3-E-7
下吹越集会施設	魚見校区沿岸地域（上吹越・下吹越・尾掛地区）	4-E-2
魚見小学校	丹波校区沿岸地域（瀧山地区）	7-A-3
指宿高等学校	丹波校区沿岸地域（瀧口地区）	7-C-1
南指宿中学校	丹波校区沿岸地域（大牟礼・湊・湯の浜地区）	7-E-2
時遊館 COCCO はしむれ	丹波校区沿岸地域（大牟礼・湊・湯の浜地区）	10-B-6
指宿医療センター	丹波校区沿岸地域（下里・大渡地区）	10-D-6
成川区民センター	山川地域沿岸地域（成川浜地区）	10-E-2
山川運動場	山川地域沿岸地域（町・福元区）	13-B-6
川尻ふれあい交流館	開聞地域沿岸地域（川尻区）	12-E-1
新吉産業付近	開聞地域沿岸地域（脇・塩屋・入野地区）	11-B-3
火の神公園付近	開聞地域沿岸地域（入野・物袋地区）	8-E-2

※津波到達までに十分な時間がない場合には、付近の高台や施設に緊急的に避難しましょう。

心臓が止まってしまうような重大な事故は、いつ、どこで、何が原因でおこるか分かりません。心臓と呼吸が止まってから時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下しますが、救急隊を待つ間に居合わせた人が心肺蘇生などを行うと救命の可能性が2倍程度に保たれることがわかっています。日本では、119番通報があってから救急車が現場に駆けつけるまでに平均して8分ほどかかります。事故などにあった人が心肺停止になったとき、その人を助けるためには、そばに居合わせた人が応急手当を行うことが重要となります。

## 心肺蘇生法

●事故などにより傷病者が心肺停止状態になった場合、現場に居合わせた人は救急車が来るまでに、速やかに心肺蘇生などを行う必要があります。



### 1 意識確認

●意識がなければ、助けを呼び、119番通報とAEDを要請する。

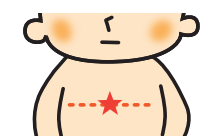
### 2 呼吸確認

●胸と腹部の動きを見ます。動いていなければ、心停止と判断します。



### 3 胸骨圧迫

- 胸の真ん中に手を置く。
- 肘を伸ばし、胸が少なくとも5cmしずむように圧迫する。
- 1分間に少なくとも100回のテンポで30回行う。



### 4 人工呼吸（※省略可能）

- 気道を確認したまま患者の鼻をつまみ、患者の口をおおい、1秒かけて息を吹き込む。傷病者の胸が、ふくらむのを確認する。
- 2回行う。
- 自信がない、抵抗がある場合は省略してよい。



### 5 心肺蘇生法

- 胸骨圧迫30回、人工呼吸2回を、到着した救急隊と交代するまで繰り返す。
- 人工呼吸を省略した場合は胸骨圧迫のみ繰り返す。



時間	3日前	1~2日前	半日前	5時間前	3時間前	0時間
状況	今後気象状況悪化のおそれ	気象状況悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生 又は切迫	
警戒レベル	1	2	3	4	5	
避難情報等	早期注意情報	大雨・洪水注意報	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保	
警報等	レベル1相当	レベル2相当	レベル3相当	レベル4相当	レベル5相当	
大雨・土砂災害	—	—	大雨警報(土砂災害)	土砂災害警戒情報	大雨特別警報	
河川の氾濫	—	氾濫注意情報	氾濫警戒情報 洪水警報	氾濫危険情報	氾濫発生情報	
住民がとるべき行動	<b>災害への心構えを高める</b> ○テレビやインターネット等で気象情報等を確認 ○防災ハザードマップで避難所・避難手段を確認 ○家族全員の今後の予定を確認 ○防災グッズの確認不足があれば買い出し ○1週間分の薬を病院に受け取りに行く ○家の周りに風で飛ばされそうなものがないか確認	<b>自らの避難行動を確認</b> ○防災ハザードマップで避難所・避難手段の再確認 ○万が一に備え、親戚・知人へ避難の受入れの相談 ○携帯電話の充電 ○テレビ(dボタン)やインターネットで気象情報・通行止め情報を確認 ○気象庁のホームページで「キキクル」を調べる	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b> ○移動に時間のかかる人は市内の指定避難所等への避難を開始 ○テレビ(dボタン)やインターネットで気象情報・通行止め情報を再確認 ○気象庁のホームページで「キキクル」を確認	<b>危険な場所から全員避難</b> ○市内の指定避難所への避難を完了 ○自宅が安全な人は自宅に留まる	<b>警戒レベル4までに必ず避難</b> 命の危険 直ちに安全確保	〇自分の状況を家族や親戚等に連絡
	<b>わが家の行動</b> (各警戒レベルの欄に記入欄あり)	<b>記入例</b> ・家族内で予め備蓄品を購入のチェック ・家族全員の集合場所を決め安全な避難ルートを策定 ・車にガソリンを入れておく ・災害情報を把握し避難を行うかの判断 ・風水害に備え家の施設や窓に養生テープを貼る ・自家用車等の対策 ・避難を開始 ・安全なルートで避難所等へ移動 ・避難所内では持ってきた食料品で過ごす ・避難が完了した場合は家族に連絡する				

※緊急時に身を寄せる避難先は、市が指定する「指定緊急避難場所」や、「安全な親戚・知人宅」など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。  
 ※「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校、公民館など)  
 ※災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」に行きましょう。

マップの見方・使い方

- 本防災マップは、平時から見やすい場所に置き、常に確認できるようにしてください。
- マップ上に表示してある土砂災害警戒区域・特別警戒区域については、崖崩れ及び土石流等の発生する可能性のある場所を示しておりますので、お近く(特に、下流側の地域)については十分に注意してください。
- 避難所については、災害によって住居を失う等、被害を受けた人や受ける可能性のある人が一定の期間、避難生活をする施設です。よって災害から一時的に避難をする場合を想定して、避難所及び避難経路を各家庭または地区(自主防災組織)で決めておく必要があります。
- 各家庭において、自宅から避難所への避難経路をペンで塗るなどして表示し、常に確認するようにしましょう。

地図の凡例

凡例		指定避難所	災害により避難した住民等を災害の危険がなくなるまで一定期間滞在させ、または災害により自宅に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させる施設。							
		指定緊急避難場所	災害が発生、または発生のおそれがある場合に、住民等が災害から命を守るために緊急的に避難するための施設又は場所。							
		津波避難目標	津波の危険から避難するため、津波避難対象区域外に定めるとりえず生命の安全確保のために避難の目標とする地点。必ずしも指定緊急避難場所とは一致しない。							
想定津波浸水域		20m以上	過去の浸水範囲 過去に大雨等により浸水した実績のある範囲							
		10m以上20m未満								
		5m以上10m未満								
		3m以上5m未満								
		2m以上3m未満								
		1m以上2m未満								
		0.3m以上1.0m未満								
		0.01m以上0.3m未満								
土石流		土石流警戒区域	土石流が発生した場合、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。							
		土石流特別警戒区域	土石流が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域。							
		土石流被害想定区域	土石流の発生により、被害が及ぶと予想される区域。							
急傾斜地		急傾斜地警戒区域	急傾斜地の崩壊が発生した場合、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。							
		急傾斜地特別警戒区域	急傾斜地の崩壊が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域。							
		急傾斜地危険箇所	急傾斜地の崩壊が発生するおそれのある斜面。							
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地の崩壊の発生により、被害が及ぶと予想される区域。							
地すべり		地すべり警戒区域	地すべりが発生した場合、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。							
		地すべり危険箇所	地すべりが発生するおそれのある斜面。							
		地すべり被害想定区域	地すべりの発生により、被害が及ぶと予想される区域。							
記号		国道		信号機		警察署・交番・駐在所		消防署		神社
		主要地方道・県道		市役所		小・中・高校・養護学校		郵便局		寺院
		その他道路		支所		ホテル・旅館		工場		墓地
		郡市界		官公署		キャンプ場		病院		図書館
		大字界		河川・池		ガソリンスタンド		運動公園・総合体育館		

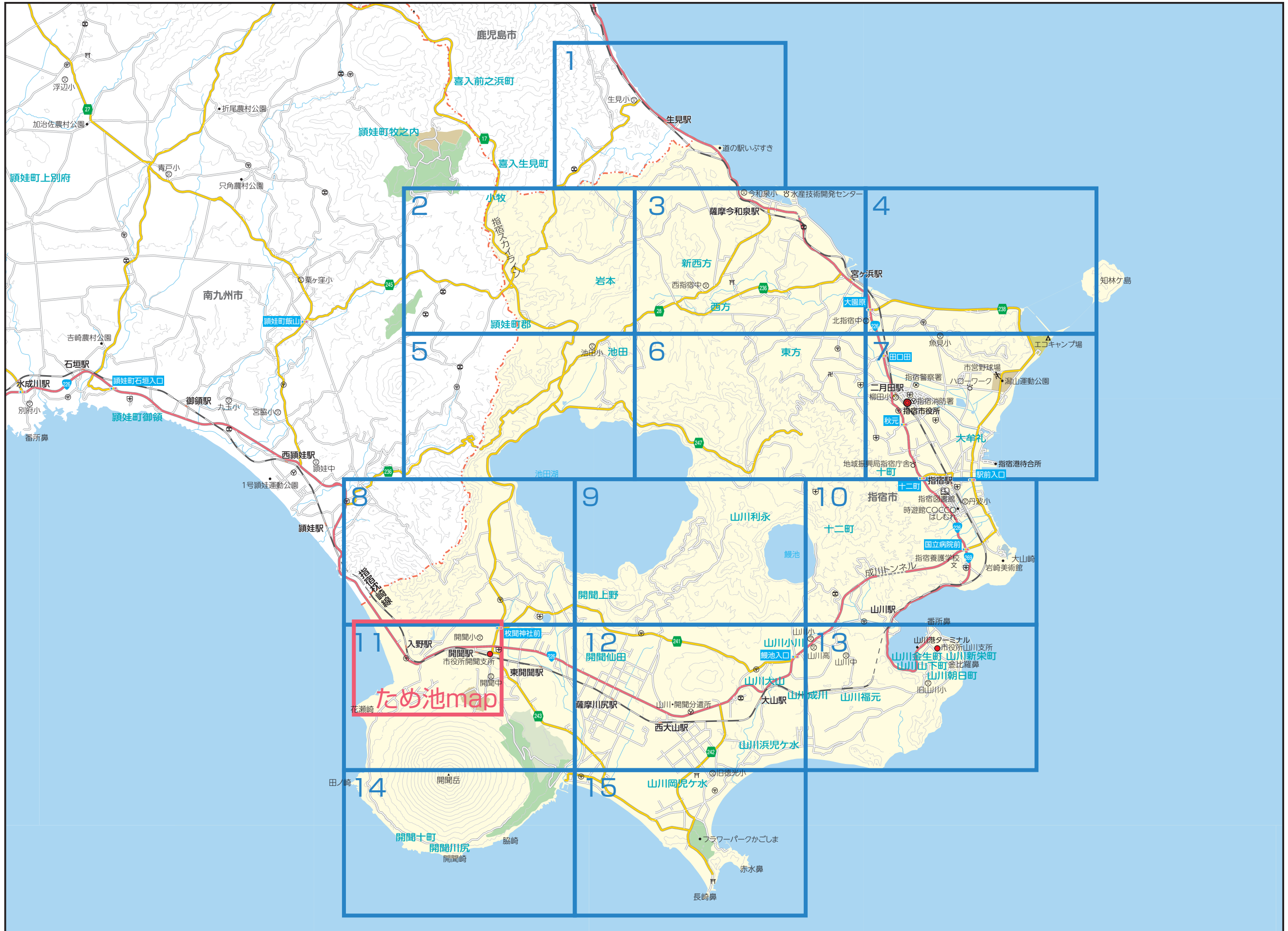


日本語		英語		ベトナム語		中国語 (繁体語)	
凡例		Legend		Chú giải		圖例	
シンボル	名称	Symbol	Name	Biểu tượng	Tên gọi	符號	名稱
	指定避難所		Designated Evacuation Shelter		Nơi sơ tán được chỉ định		指定避難所
	指定緊急避難場所		Designated Emergency Evacuation Site		Nơi sơ tán khẩn cấp được chỉ định		指定緊急避難場所
	津波避難目標		Tsunami Evacuation Goal		Mục tiêu sơ tán do sóng thần		海嘯避難目標
<b>土砂災害</b>		<b>Sediment Disaster</b>		<b>Thảm họa sạt lở đất</b>		<b>土砂災害</b>	
<b>土石流</b>		<b>Mudslide</b>		<b>Lũ bùn đá</b>		<b>土石流</b>	
	土石流警戒区域		Mudslide Alert Zone		Khu vực cảnh báo lũ bùn đá		土石流警戒区域
	土石流特別警戒区域		Mudslide Special Alert Zone		Khu vực cảnh báo đặc biệt lũ bùn đá		土石流特別警戒区域
	土石流被害想定区域		Potential Mudslide Damage Zone		Khu vực giả định chịu thiệt hại do lũ bùn đá		土石流受災設想区域
<b>急傾斜地</b>		<b>Steep Terrain</b>		<b>Đốc nghiêng đứng</b>		<b>陡坡地</b>	
	急傾斜地警戒区域		Steep Terrain Alert Zone		Khu vực cảnh báo có dốc nghiêng đứng		陡坡地警戒区域
	急傾斜地特別警戒区域		Steep Terrain Special Alert Zone		Khu vực cảnh báo đặc biệt có dốc nghiêng đứng		陡坡地特別警戒区域
	急傾斜地危険箇所		Steep Terrain Hazard		Địa điểm có nguy cơ có dốc nghiêng đứng		陡坡地危険地点
	急傾斜地被害想定区域		Potential Steep Terrain Damage Zone		Khu vực giả định chịu thiệt hại do dốc nghiêng đứng		陡坡地受災設想区域
<b>地すべり</b>		<b>Landslide</b>		<b>Lở đất</b>		<b>滑坡</b>	
	地すべり警戒区域		Landslide Alert Zone		Khu vực cảnh báo lở đất		滑坡警戒区域
	地すべり危険箇所		Landslide Hazard		Địa điểm có nguy cơ lở đất		滑坡危険地点
	地すべり被害想定区域		Potential Landslide Damage Zone		Khu vực giả định chịu thiệt hại do lở đất		滑坡受災設想区域
<b>津波浸水想定区域</b>		<b>Potential Tsunami Flooding Zone</b>		<b>Khu vực giả định bị ngập nước do sóng thần</b>		<b>海嘯浸水設想区域</b>	
	20m以上		Over 20 m		Từ 20m trở lên		20m以上
	10m以上20m未満		Over 10 m, under 20 m		Từ 10m đến dưới 20m		10m以上未滿20m
	5m以上10m未満		Over 5 m, under 10 m		Từ 5m đến dưới 10m		5m以上未滿10m
	3m以上5m未満		Over 3 m, under 5 m		Từ 3m đến dưới 5m		3m以上未滿5m
	2m以上3m未満		Over 2 m, under 3 m		Từ 2m đến dưới 3m		2m以上未滿3m
	1m以上2m未満		Over 1 m, under 2 m		Từ 1m đến dưới 2m		1m以上未滿2m
	0.3m以上1.0m未満		Over 0.3 m, under 1.0 m		Từ 0,3m đến dưới 1,0m		0.3m以上未滿1.0m
	0.01m以上0.3m未満		Over 0.01 m, under 0.3 m		Từ 0,01m đến dưới 0,3m		0.01m以上未滿0.3m
<b>ため池浸水深</b>		<b>Reservoir Inundation Depth</b>		<b>Độ sâu ngập nước do hồ chứa</b>		<b>蓄水池浸水深度</b>	
	3m以上		Over 3 m		Từ 3m trở lên		3m以上
	1m以上3m未満		Over 1 m, under 3 m		Từ 1m đến dưới 3m		1m以上未滿3m
	0.5m以上1m未満		Over 0.5 m, under 1 m		Từ 0,5m đến dưới 1m		0.5m以上未滿1m
	0.5m未満		Under 0.5 m		Dưới 0,5m		未滿0.5m
	過去の浸水範囲 (内水)		Past Inundation Range (inland water)		Phạm vi ngập nước trong quá khứ (đông chảy cục bộ)		過去の浸水範囲 (内水)

言葉が通じないときは、スマートフォン用の無料音声翻訳アプリ「VoiceTra」を使ってください。  
 If you cannot communicate due to the language, please try using VoiceTra, a free translation app for smartphones.  
 語言不通時，請利用智慧型手機的免費語音翻譯APP「Voicetra」為您翻譯。  
 Khi không hiểu ngôn ngữ, hãy thử sử dụng ứng dụng phiên dịch tiếng nói miễn phí "VoiceTra" dùng cho Smartphone.  
**ただちに、避難所へ避難をしてください。または、安全な場所で、身の安全を確保してください。**  
 Go to an evacuation center immediately or ensure your safety in a safe place.  
 請立刻前往避難所避難。或前往安全的場所，確保自身安全。  
 Hãy nhanh chóng chạy đến địa điểm lánh nạn để lánh nạn. Ngoài ra, hãy bảo đảm an toàn cho bản thân mình ở một nơi an toàn.  
**山／川／海に近づかないでください**  
 Please do not approach the mountains / river / sea  
 請勿靠近山區／河川／海邊  
 Đừng đến gần núi / sông / biển  
**ここは危険です**  
 This area/site is dangerous  
 這裡很危險  
 Nơi đây nguy hiểm  
**震度 \_\_\_\_ の地震がありました。**  
 There was an earthquake with an intensity of \_\_\_\_\_.  
 發生震度\_\_\_\_級性的地震。  
 Đã xảy ra động đất mạnh \_\_ chấ'n độ.  
**壊れかけた家や崖などには近づかないようにしてください。**  
 Stay away from damaged houses and/or cliffs.  
 請勿靠近有損毀的房子或山崖。  
 Đừng đến gần những căn nhà bắt đầu bị hỏng hoặc vách đá v.v.  
**家の倒壊や火事の危険があるときは、大きな公園や広場へ逃げてください。**  
 In the case that your house is about to collapse or catch fire, evacuate to a large park or open space.  
 有房子倒塌或火災的危險時，請逃到較大的公園或廣場。  
 Khi nhà có nguy cơ bị đổ sập xuống hoặc cháy, xin hãy chạy ra một công viên hoặc quảng trường lớn để thoát hiểm.  
**\_\_\_\_(a)に、\_\_\_\_(b)警報が発表されました(警戒レベル\_\_\_\_(c))**  
 \_\_\_\_\_(b) Warning (Keiho) has been issued in \_\_\_\_\_(a) (alert level \_\_\_\_\_(c))  
 在\_\_\_\_\_(a)發布\_\_\_\_\_(b)警報(警戒級別\_\_\_\_\_(c))  
 Tại \_\_ (a), có cảnh báo sẽ xảy ra \_\_ (b) (Cấp độ báo động \_\_ (c))  
**警戒レベル4は、高齢者など避難に時間がかかる人だけでなく、対象地域の全員が避難する段階です。**  
 Alert level 4 is the degree of alert where not only people who require a significant amount of time to evacuate such as elderly people but also all the residents in the subject area need to evacuate.  
 警戒級別4，不僅僅是高齡者等比較需要花時間避難者，對象地區全體都要避難的階段。  
 Cấp độ báo động 4 là cá'p độ mà không chỉ như'ng ngư'oi mà' t thờ' gian cho việc thoát hiểm như ngư'oi cao tuổi v.v., mà toàn bộ mọi ngư'oi trong khu vực nguy hiểm cá'n phải chạy đi lánh nạn hê' t.  
**警戒レベル3は、高齢者、体の不自由な人、日本語が得意な外国人など避難に時間のかかる人が避難を始める段階です。**  
 Alert level 3 is the degree of alert where people who require a significant amount of time to evacuate such as elderly, disabled people and foreigners who cannot understand Japanese well need to evacuate.  
 警戒級別3，是高齡者、行動不便者、不懂日語的外國人等比較需要花時間避難者開始避難的階段。  
 Cấp độ báo động 3 là cá'p độ mà như'ng ngư'oi mà' t thờ' gian cho việc thoát hiểm như ngư'oi cao tuổi, ngư'oi tàn tật, ngư'oi nươ'c ngoài không rành tiê'ng Nhật v.v. cá'n bắ' t đầ'u chạy đi lánh nạn.

# 指宿市全体図

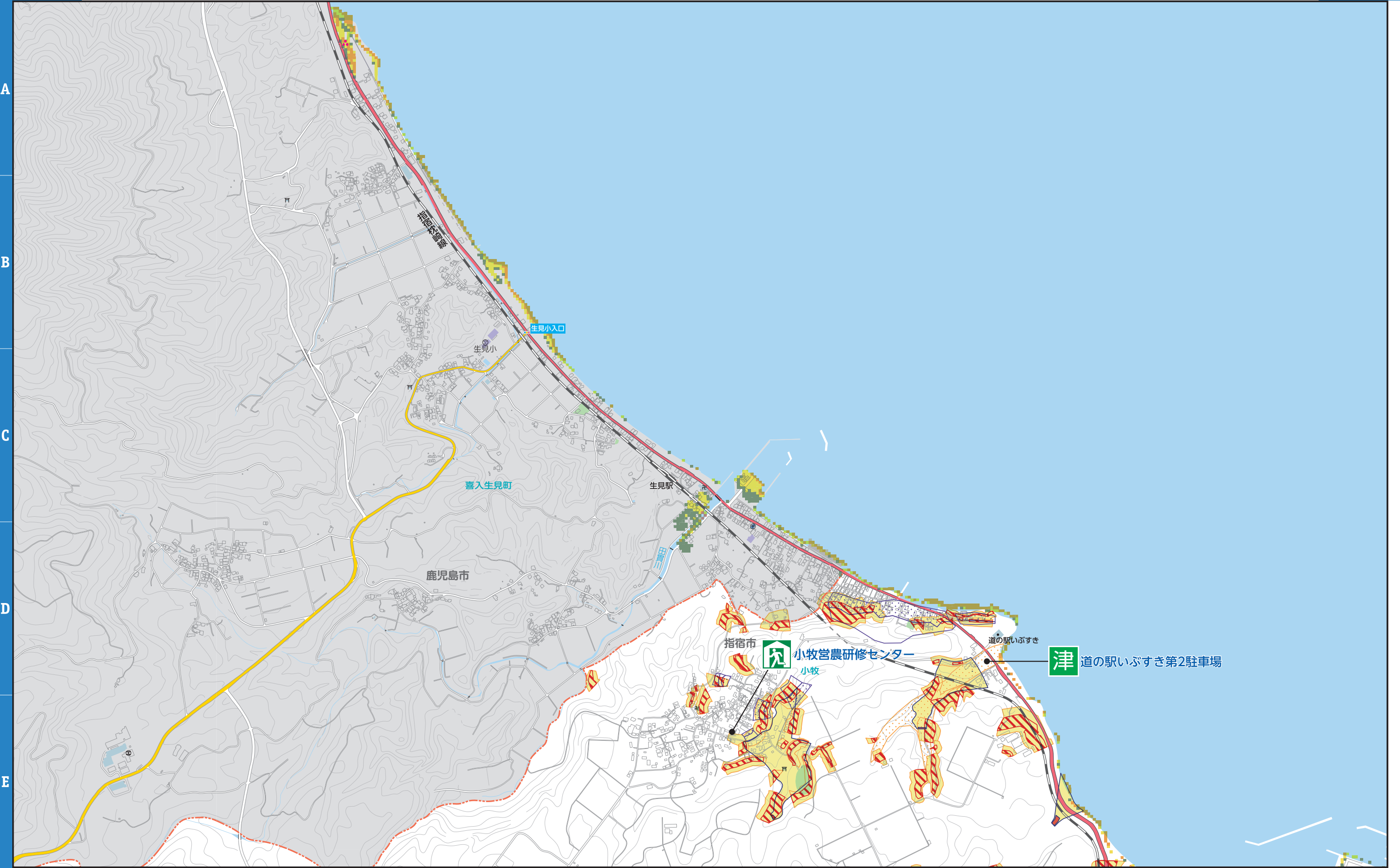
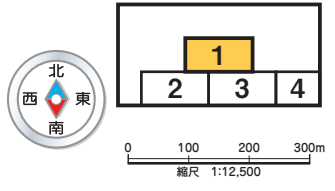
0 1km 2km  
縮尺 1:80,000





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所	10m以上20m未満	10m以上20m未満	
		津波避難目標	5m以上10m未満	5m以上10m未満	
		3m以上5m未満	3m以上5m未満		
		2m以上3m未満	2m以上3m未満		
		1m以上2m未満	1m以上2m未満		
		0.3m以上1.0m未満	0.3m以上1.0m未満		
		0.01m以上0.3m未満	0.01m以上0.3m未満		

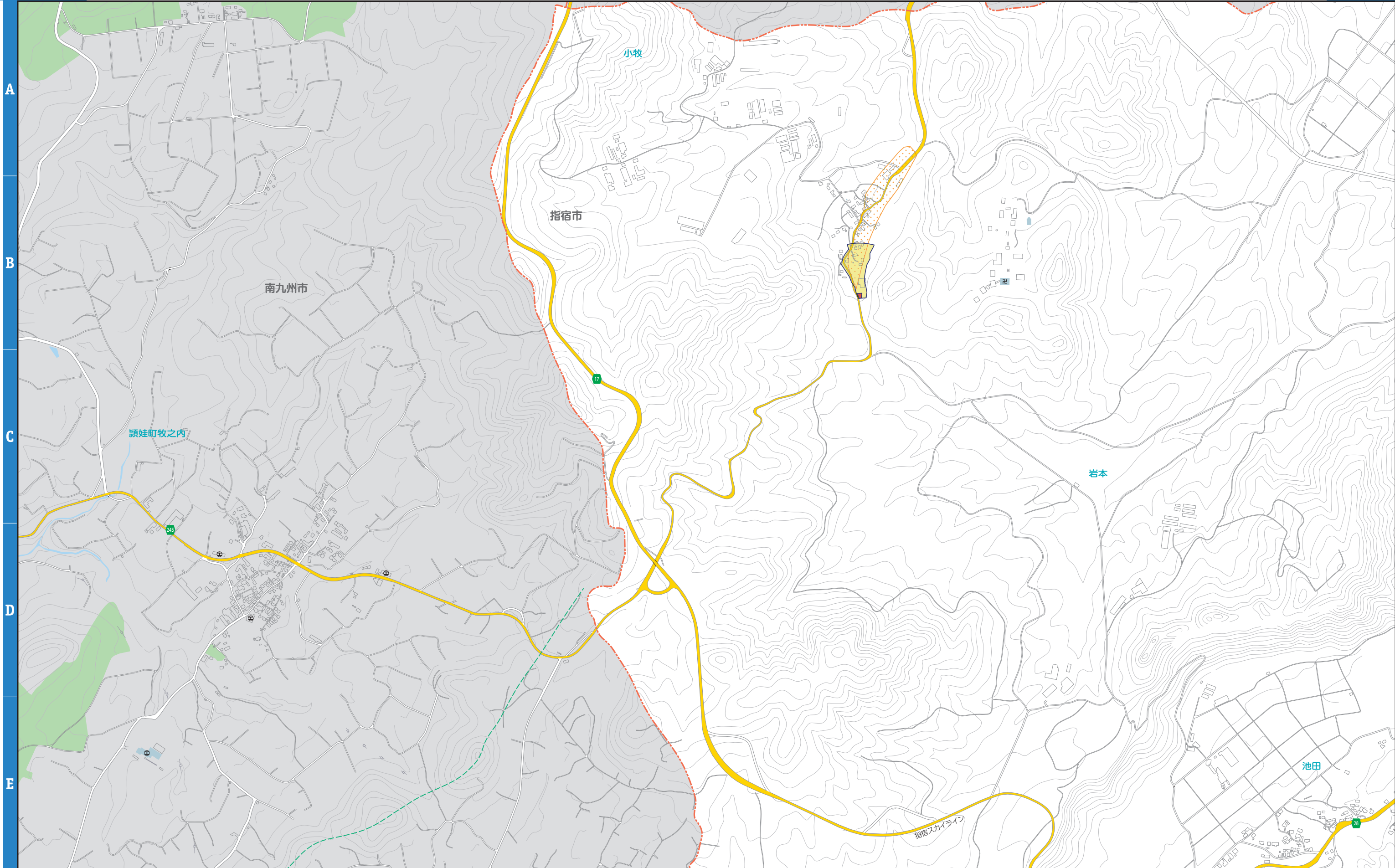
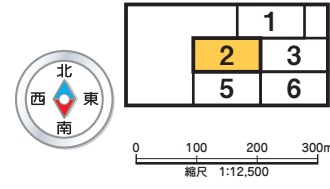
凡例		危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		急傾斜地危険箇所	土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		地すべり危険箇所	急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	
			地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	急傾斜地特別警戒区域





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域		20m以上	過去の浸水範囲	
		指定緊急避難場所			10m以上20m未満		
		津波避難目標			0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所		10m以上20m未満	
		津波避難目標		5m以上10m未満	
			3m以上5m未満		
			2m以上3m未満		
			1m以上2m未満		
			0.3m以上1.0m未満		
			0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域

北  
西 東  
南

1
2 3 4
5 6 7

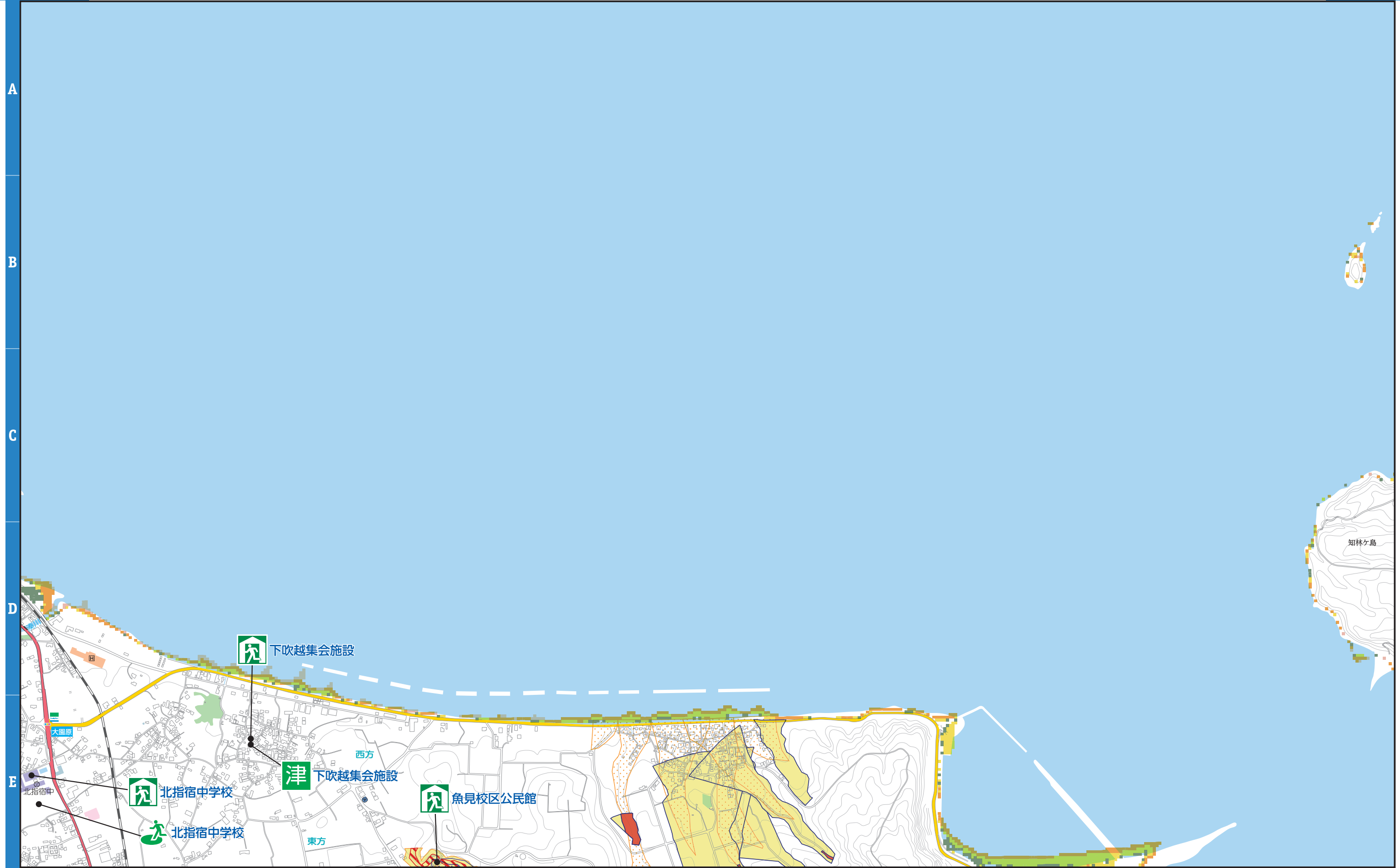
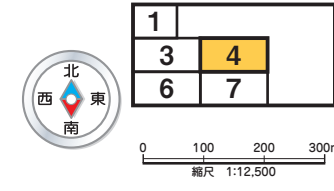
0 100 200 300m  
縮尺 1:12,500





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所		10m以上20m未満	
		津波避難目標		5m以上10m未満	
			3m以上5m未満		
			2m以上3m未満		
			1m以上2m未満		
			0.3m以上1.0m未満		
			0.01m以上0.3m未満		

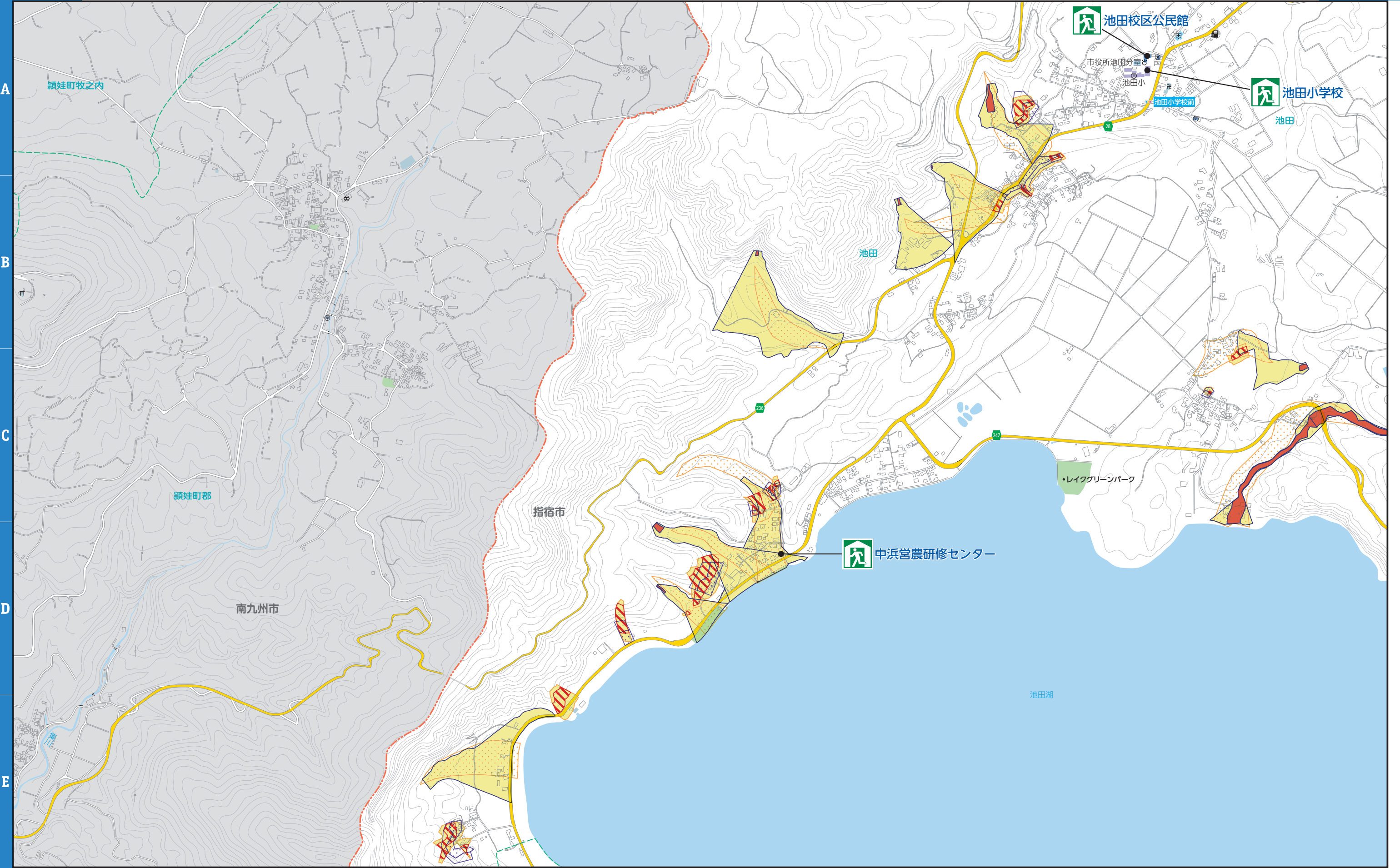
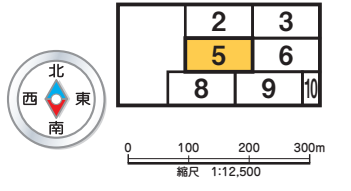
凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	急傾斜地特別警戒区域





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所	津波浸水想定区域	10m以上20m未満	
		津波避難目標	津波浸水想定区域	5m以上10m未満	
		津波浸水想定区域	3m以上5m未満		
		津波浸水想定区域	2m以上3m未満		
		津波浸水想定区域	1m以上2m未満		
		津波浸水想定区域	0.3m以上1.0m未満		
		津波浸水想定区域	0.01m以上0.3m未満		

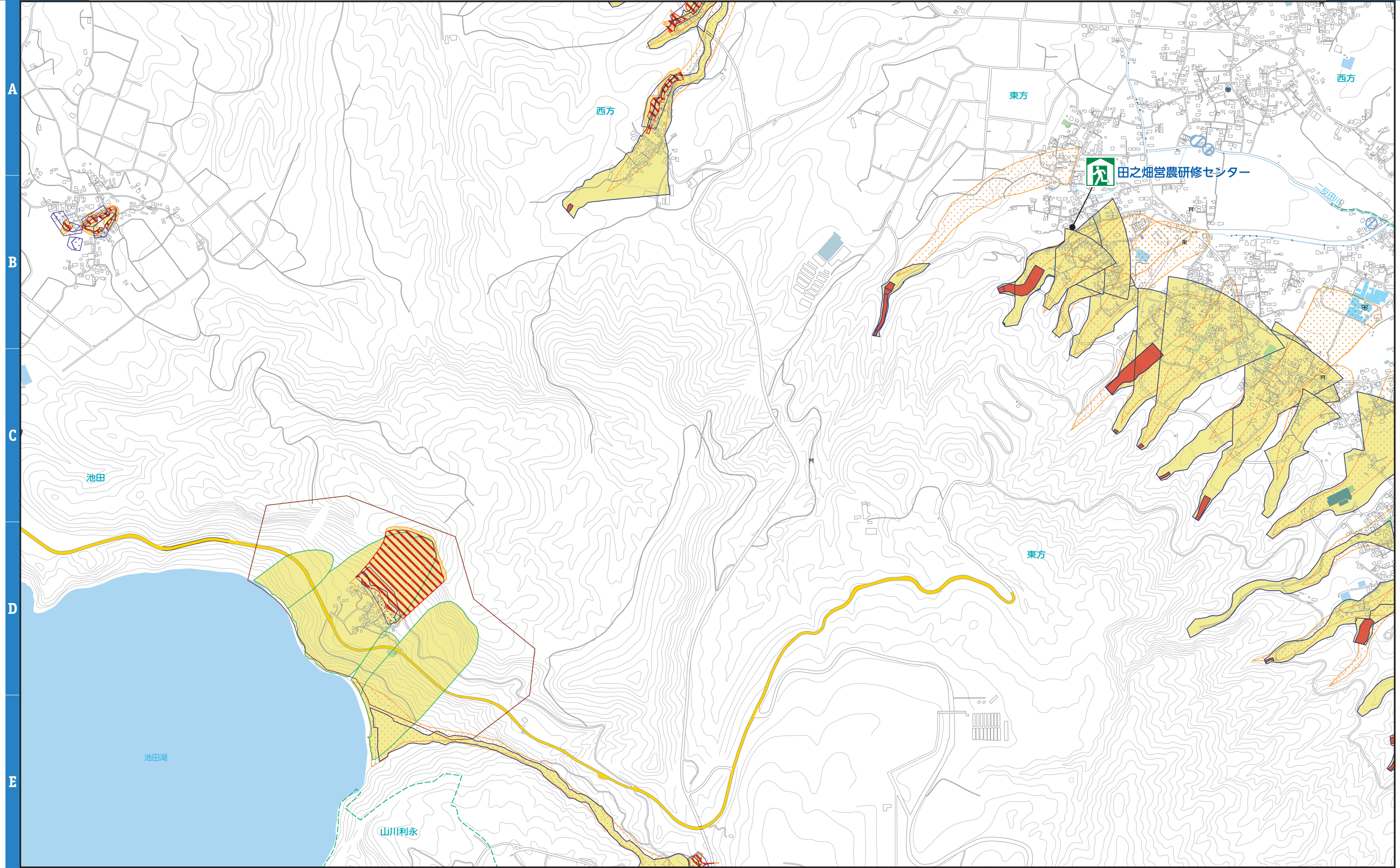
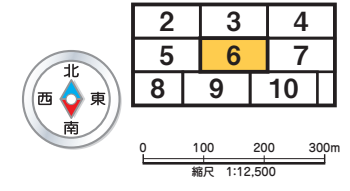
凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	急傾斜地特別警戒区域
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所	10m以上20m未満	5m以上10m未満	
		津波避難目標	3m以上5m未満	2m以上3m未満	
		0.3m以上1.0m未満	0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	急傾斜地特別警戒区域





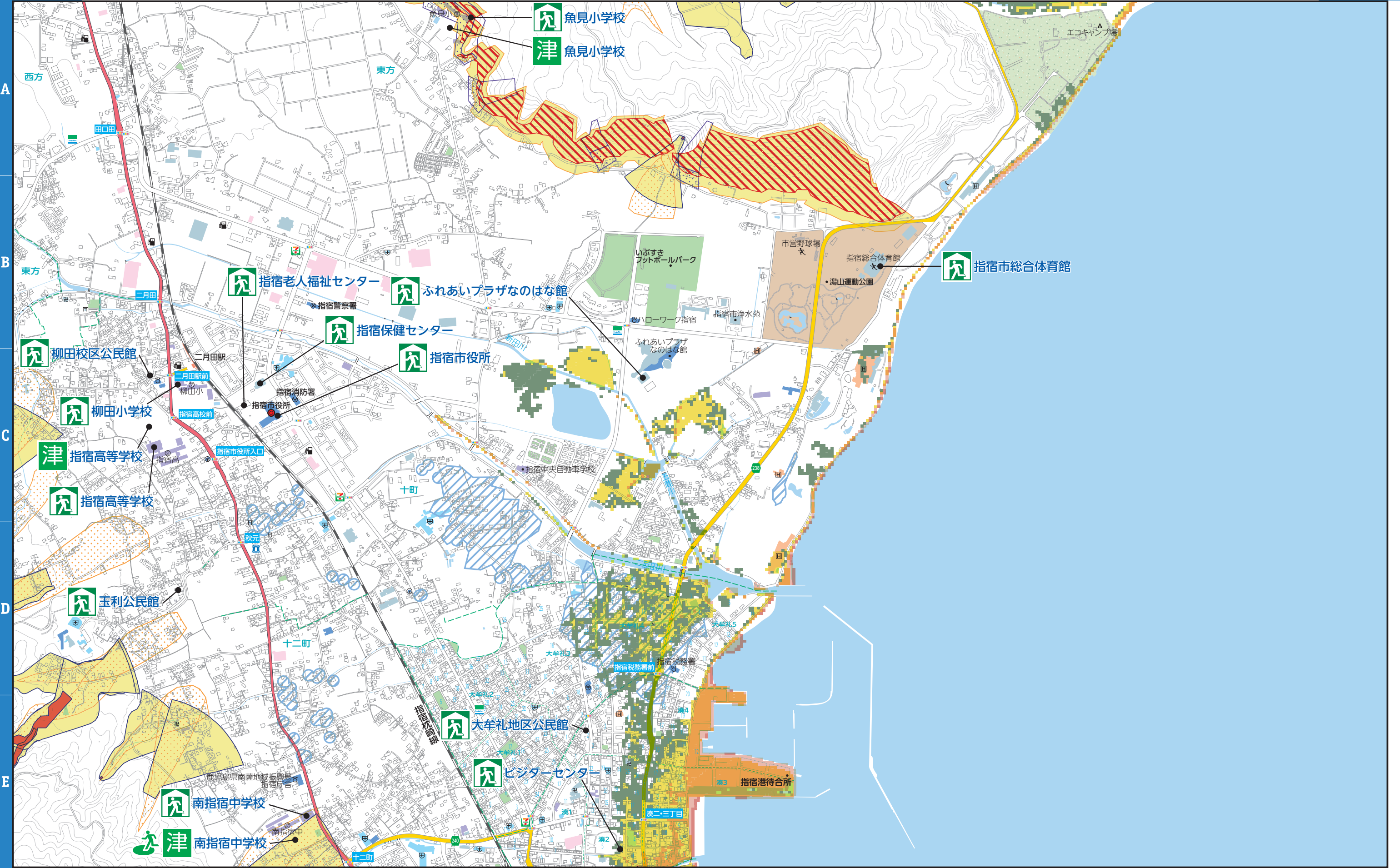
凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲
		指定緊急避難場所	10m以上20m未満	5m以上10m未満	
		津波避難目標	3m以上5m未満	2m以上3m未満	
			0.3m以上1.0m未満	0.01m以上0.3m未満	

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	急傾斜地特別警戒区域
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	

3	4
6	7
9	10

北  
西 東  
南

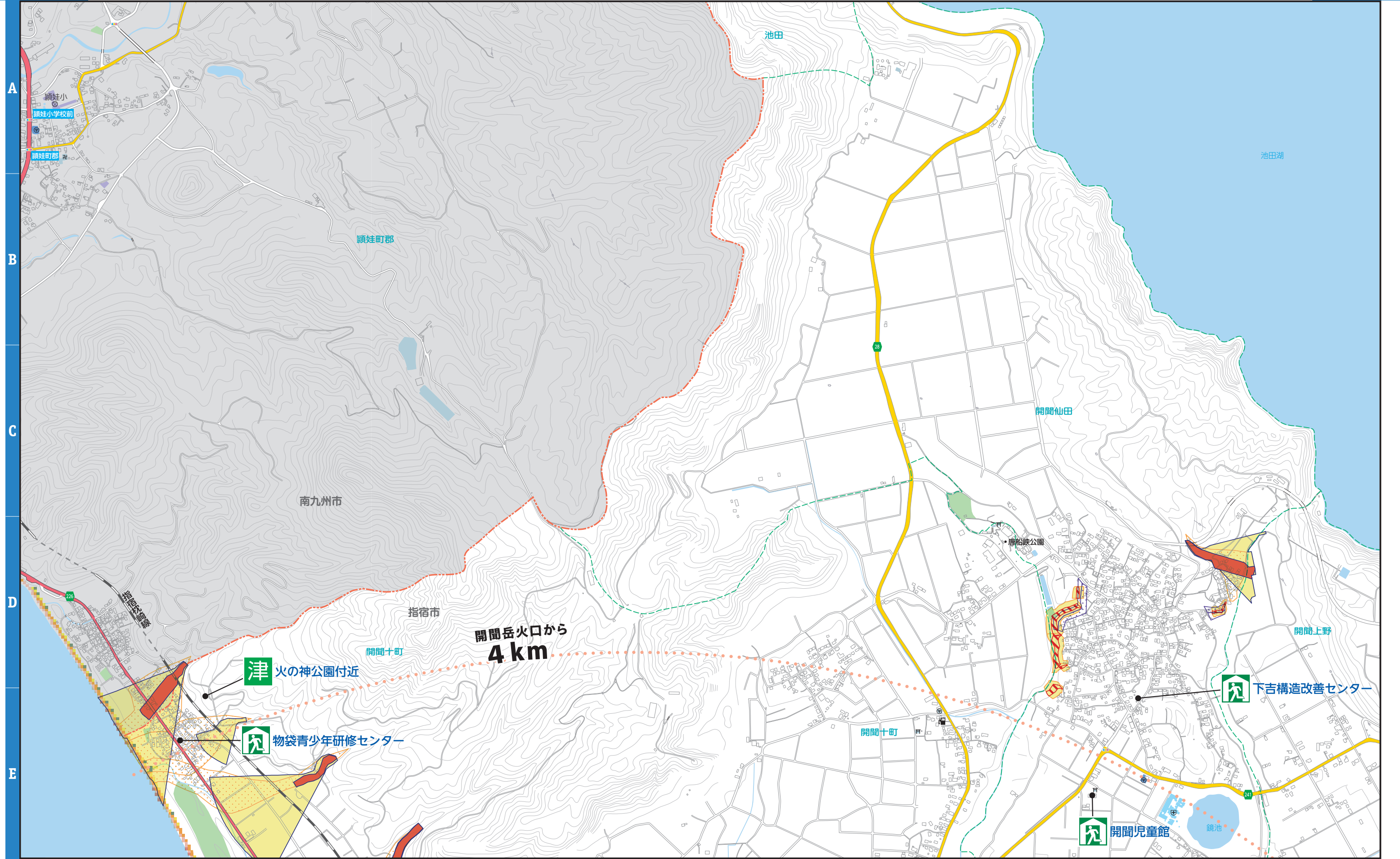
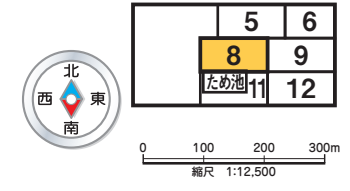
0 100 200 300m  
縮尺 1:12,500





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所		10m以上20m未満	
		津波避難目標		5m以上10m未満	
			3m以上5m未満		
			2m以上3m未満		
			1m以上2m未満		
			0.3m以上1.0m未満		
			0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	急傾斜地特別警戒区域
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	





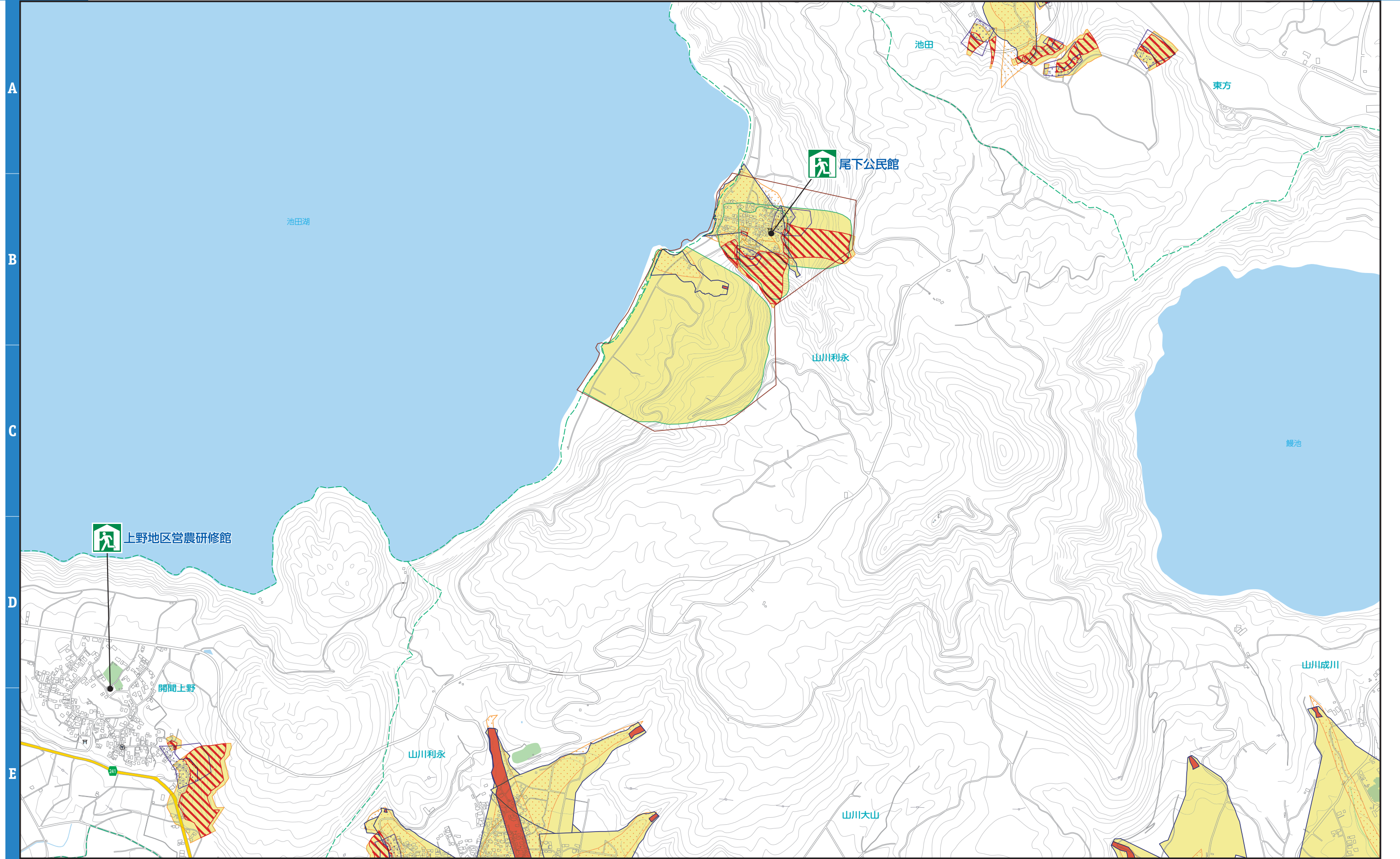
凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所	10m以上20m未満	5m以上10m未満	
		津波避難目標	3m以上5m未満	2m以上3m未満	
		0.3m以上1.0m未満	0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	急傾斜地特別警戒区域
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	

5	6	7
8	9	10
11	12	13

北  
西 東  
南

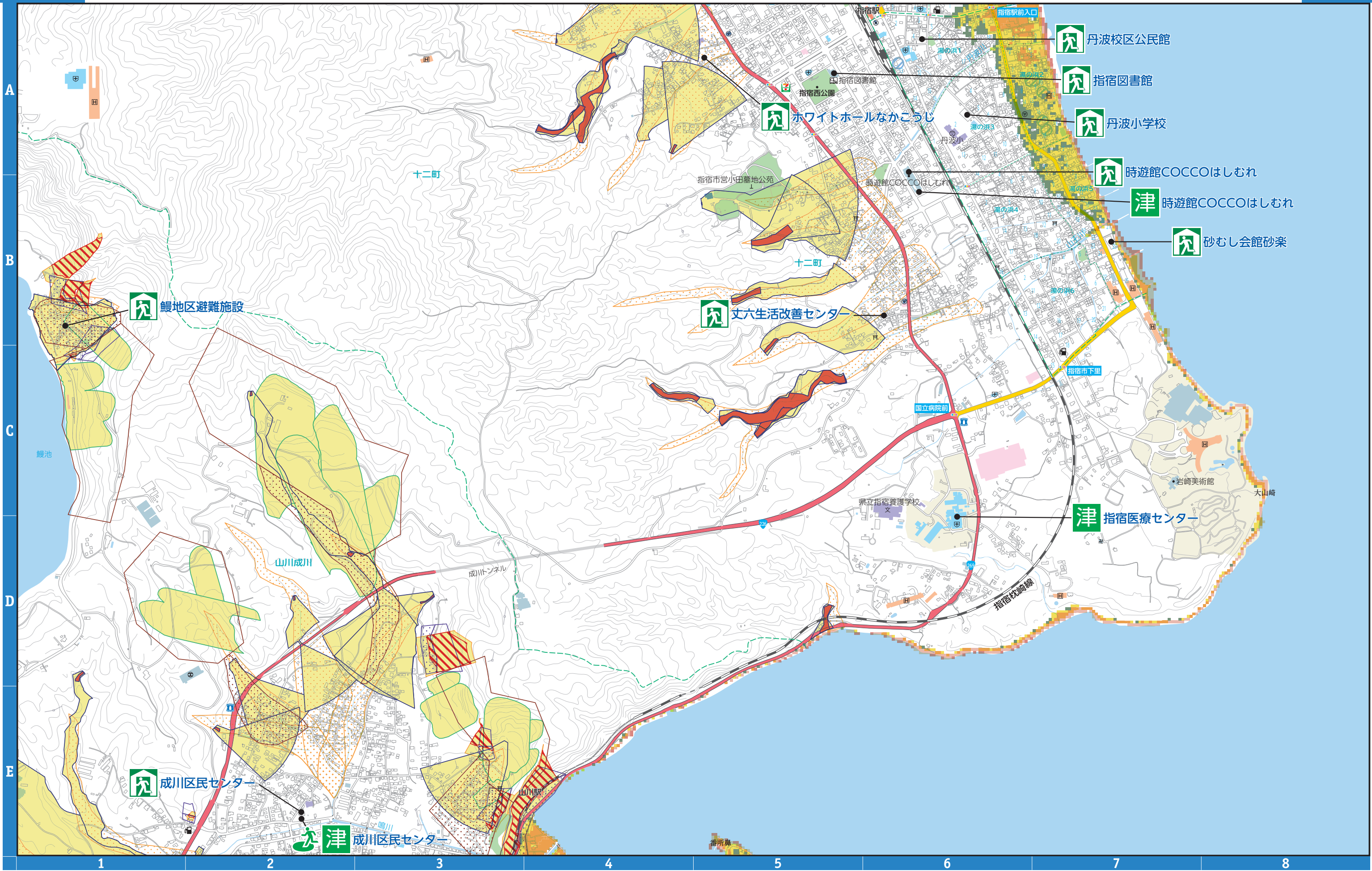
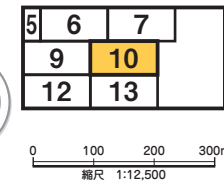
0 100 200 300m  
縮尺 1:12,500





凡例	指定避難所		津波浸水想定区域	過去の浸水範囲		
				20m以上		
				10m以上20m未満		
				0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域





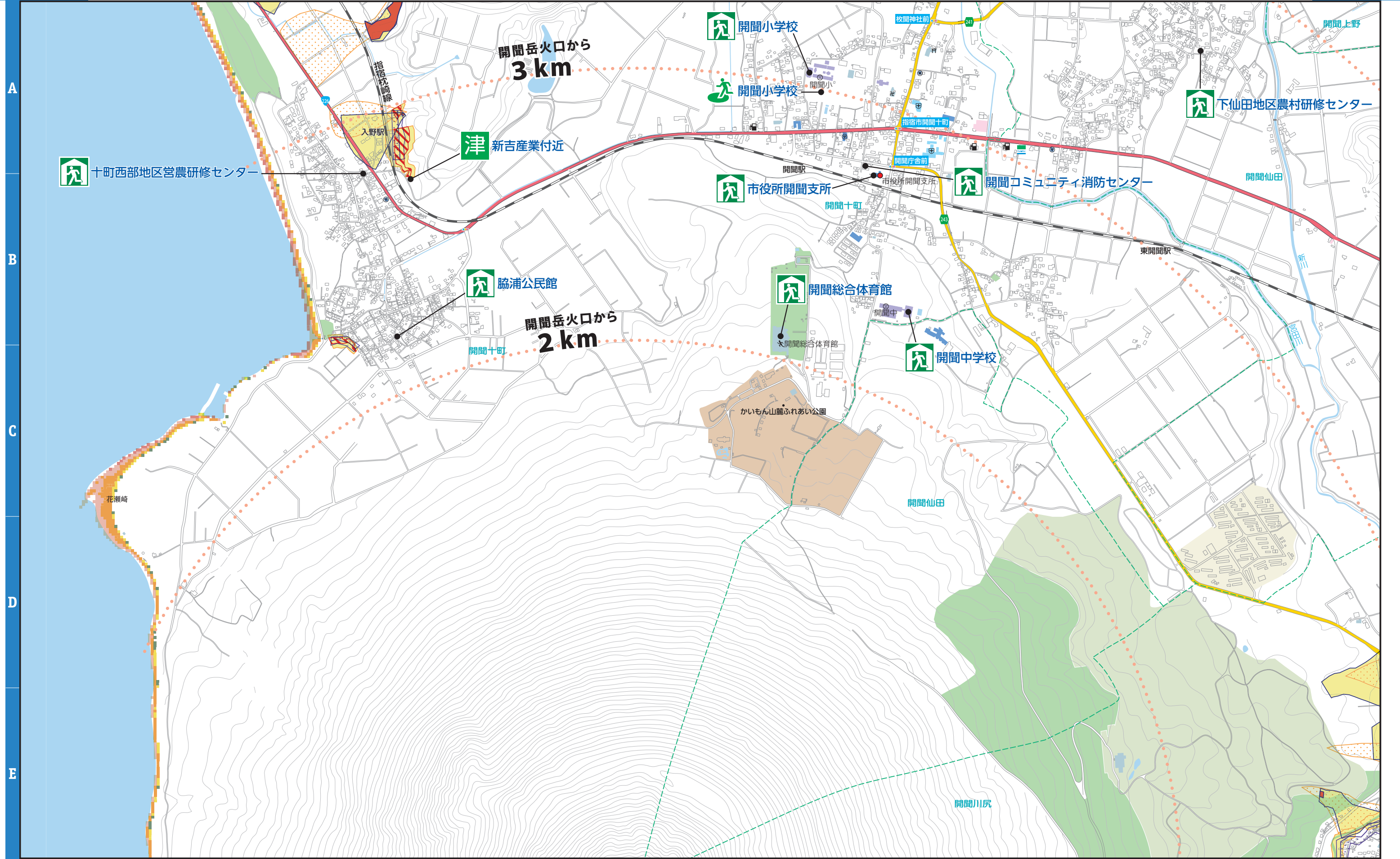
凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲
		指定緊急避難場所		10m以上20m未満	
		津波避難目標		0.01m以上0.3m未満	

凡例		危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		急傾斜地危険箇所	土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域

北 南 西 東

8	9
11	12
14	15

0 100 200 300m  
縮尺 1:12,500





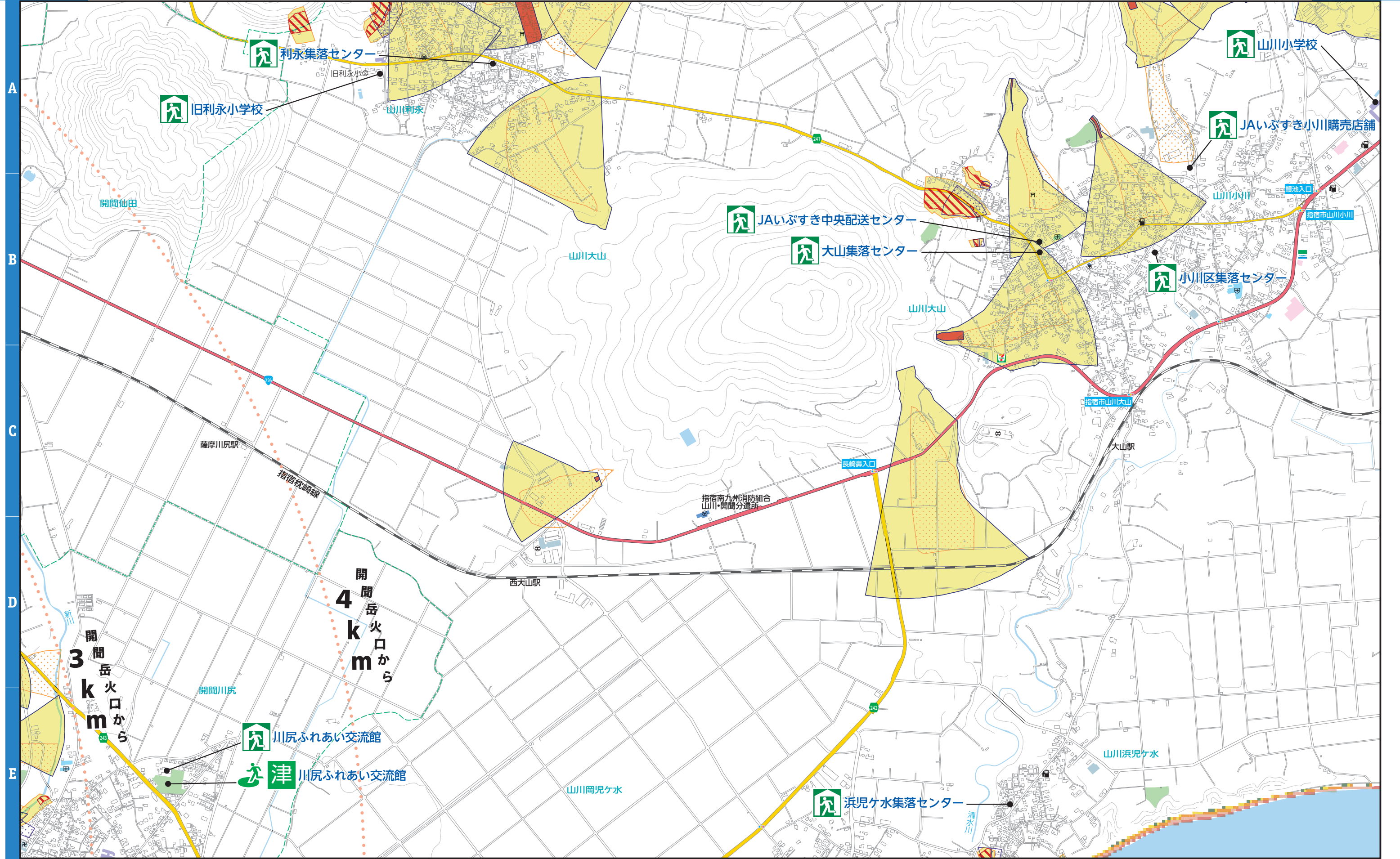
凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所		10m以上20m未満	
		津波避難目標		5m以上10m未満	
			3m以上5m未満		
			2m以上3m未満		
			1m以上2m未満		
			0.3m以上1.0m未満		
			0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	急傾斜地特別警戒区域
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	

8	9	10
11	12	13
14	15	

北  
西 東  
南

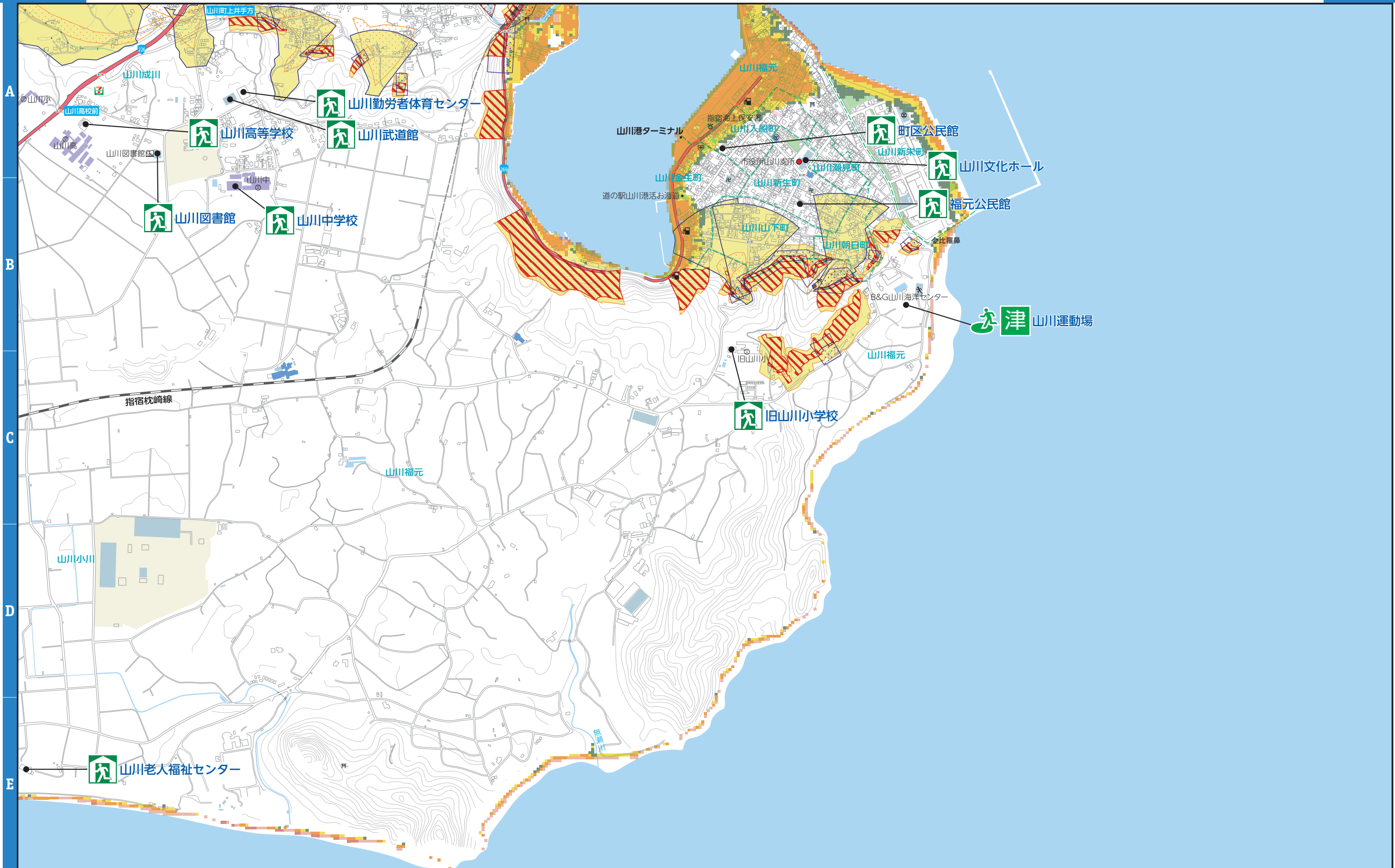
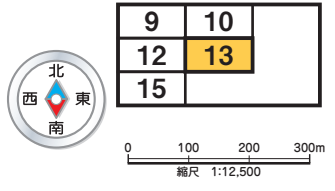
0 100 200 300m  
縮尺 1:12,500





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲
		指定緊急避難場所	10m以上20m未満	10m以上20m未満	
		津波避難目標	5m以上10m未満	5m以上10m未満	
			3m以上5m未満		
			2m以上3m未満		
			1m以上2m未満		
			0.3m以上1.0m未満		
			0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
	急傾斜地危険箇所		土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
	地すべり危険箇所		急傾斜地警戒区域	急傾斜地特別警戒区域
			地すべり警戒区域	



1 2 3 4 5 6 7 8



凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所		10m以上20m未満	
		津波避難目標		5m以上10m未満	
			3m以上5m未満		
			2m以上3m未満		
			1m以上2m未満		
			0.3m以上1.0m未満		
			0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	急傾斜地特別警戒区域

たぬ池 11 12  
14 15

北 東  
西 南

0 100 200 300m  
縮尺 1:12,500





凡例		指定避難所	津波浸水想定区域	20m以上	過去の浸水範囲 
		指定緊急避難場所	10m以上20m未満	10m以上10m未満	
		津波避難目標	5m以上10m未満	3m以上5m未満	
		2m以上3m未満	1m以上2m未満		
		0.3m以上1.0m未満	0.01m以上0.3m未満		

凡例	危険箇所	被害想定区域	警戒区域	特別警戒区域
		土石流被害想定区域	土石流警戒区域	土石流特別警戒区域
		急傾斜地被害想定区域	急傾斜地警戒区域	急傾斜地特別警戒区域
		地すべり被害想定区域	地すべり警戒区域	

たぬ池 11 12 13  
14 15

北  
西 東  
南

0 100 200 300m  
縮尺 1:12,500





# 山崎ため池ハザードマップ

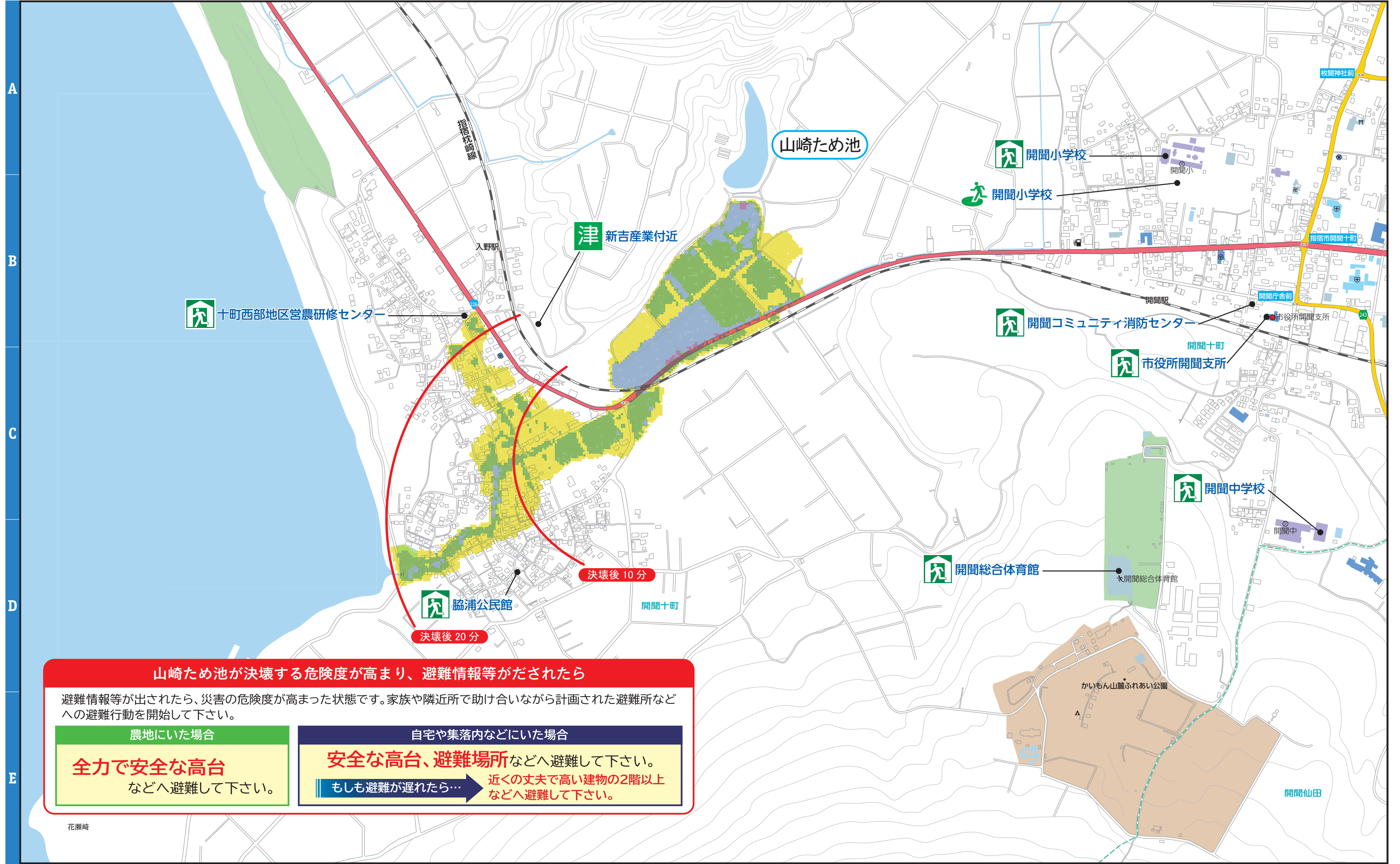
凡例		指定避難所	ため池浸水深	3m以上	・ 2階以上が浸水 ・ 水流が強い場合は、木造住宅が倒壊する危険がある
		指定緊急避難場所	1m以上3m未満	・ 1階床上が浸水 ・ 水流が強い場合は、木造住宅が倒壊する危険がある	
		津波避難目標	0.5m以上1m未満	・ 床下浸水 ・ 浸水の深さがヒザになると、歩行は困難	

北 西 東 南

0 100 200m

縮尺 1:8,000

8	9
ため池	1112
1.4	1.5



**山崎ため池が決壊する危険度が高まり、避難情報等がだされたら**

避難情報等が出されたら、災害の危険度が高まった状態です。家族や隣近所で助け合いながら計画された避難所などへの避難行動を開始して下さい。

<p>農地にいた場合</p> <p><b>全力で安全な高台</b> などへ避難して下さい。</p>	<p>自宅や集落内などにいた場合</p> <p><b>安全な高台、避難場所</b>などへ避難して下さい。</p> <p>もしも避難が遅れたら… → 近くの丈夫で高い建物の2階以上などへ避難して下さい。</p>
-------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------



# わが家の防災・緊急情報メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報です。  
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・市に情報を提供します。

氏名		電話	
住所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難所	

家族構成 連絡先	氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ	

家族の 「緊急情報」・ 救急メモ	氏名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関	

【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

-----

-----

緊急時 連絡先	氏名	間柄	電話	住所	メモ	

わが家の 防災メモ	※災害について家族で話しあった事などを自由にお書きください。
	-----
	-----
	-----